

Canon

EOS-1 V

EOS-1 V HS



使用説明書



日本語版



キヤノン製品のお買い上げありがとうございます

EOS-1Vは、高精度エリアAF機能を搭載した高性能AF一眼レフカメラです。

簡単な自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えていますが、使い方は、電子ダイヤル操作を基本とするシンプルな形にまとめてあります。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、各操作に慣れたうえで正しくお使いください。

■本文中のマークについて

-  撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。
-  基本操作に加えて知っていただきたい事項が書かれています。
-  カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため6ページの「安全上のご注意」および10ページの「取り扱い上のご注意」をお読みください。

この使用説明書は必要なきいつでも取り出せる場所においてご活用ください。

■ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に作動することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。ご注意ください。
また、EOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

目次

安全上のご注意	6
取り扱い上のご注意	10
各部の名称	12
本使用説明書の操作説明上のお断り	16

1 撮影前の準備と操作の基本 17

操作の基本	18
電池のセットと容量の確認	23
レンズを取り付ける・取り外す	25
鮮明なファインダーに調整する	26
フィルムIDを写し込む	26
フィルムを入れる・取り出す	29

2 すぐ撮影するには〈P〉プログラムAE撮影 33

カメラの構え方	36
---------	----

3 オートフォーカス(AF)とピント合わせ 37

AFモードの選択	38
エリアAFフレームとAFフレーム	41
AFフレームの選択	42
AFフレームの登録と切り換え	46
AFフレームの領域拡大	48
画面の端の被写体にピントを合わせる	49
AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)	51

4 撮影目的に合わせた測光方式の選択 53

測光モードの選択方法	54
測光モードの種類	55

5 撮影目的に合わせた自在な応用撮影 59

Tv シャッター速度を決めて撮る	60
Av 絞り数値を決めて撮る	62
DEP ピントの合う範囲を決めて撮る	65
M 自分で露出を決めて撮る	69
自分の好みに露出を補正する	71
露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影	73

露出を固定して撮る／AEロック撮影	75	
フィルム感度の手動設定	77	
 多重露出撮影	78	1
バルブ撮影	80	
一枚撮影・連続撮影の切り換え	81	
セルフタイマー撮影	83	
被写界深度の確認	84	2
ミラーアップ撮影	85	
表示パネルの照明	86	
モノクロ赤外フィルムを使った撮影	86	
6 ストロボ撮影	87	3
EOS専用スピードライト550EXを利用した撮影	88	
その他のEOS専用スピードライトを利用した撮影	97	
汎用ストロボを利用した撮影	98	4
7 カスタム機能	99	
カスタム機能の設定	100	
カスタム機能の解除	101	5
カスタム機能で変更できる内容	102	
パーソナル機能について	115	
カスタム機能のグループ登録	116	
撮影データ記憶機能について	118	6
8 EOS-1V HSをお買い求めの方へ	119	
9 資料	123	7
写真の基本用語解説	124	
「故障かな？」とお考えになる前に	126	
露出警告表示一覧表	128	8
プログラム線図	129	
シャッター速度と絞り数値の表示	130	
フォーカシングスクリーンを交換したとき	131	
主なアクセサリ	133	
主な性能の一覧	138	
アフターサービスについて	141	9
索引	142	

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止

- ⓪ 記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
- ⓪ の中に具体的な禁止内容が描かれています。

 **警告****電池について**

-  このカメラで指定されていない電池は、使用しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。また、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を火の中に入れたり、分解、加熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  リチウム電池、アルカリ電池など充電できない電池を無理に充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を取り外した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師に相談してください。
-  万一、カメラ（電池）が熱くなる、煙がでる、焦げ臭いなどの異常が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。火傷には、十分注意しながら速やかに電池を取り出し、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

警告

-  電池を廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。
-  電池の「+」と「-」の向きをまちがえないようにしてください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となることがあります。

その他取り扱いについて

-  自分でカメラを分解、改造しないでください。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
-  レンズまたはレンズをつけたカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因になります。
-  湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
-  カメラは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
-  自動車などの運転中に運転者は、カメラを絶対に操作しないでください。交通事故の原因となります。

 **注意**

-  カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置いたりしないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。
-  カメラを低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因となることがあります。
-  レンズまたはレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
-  カメラをストラップで下げているときは、他の物に引っ掛かったりしないように注意してください。けがをする原因となることがあります。
-  カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。つけたまま移動するとつまずいたり、ぶつかけたりしてけがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
-  万一、カメラごと水に落としたり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

**使用後はリサイクルへ**

Ni-MH ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

手入れと保管について

- (1) カメラは精密機械です。落としたりショックを与えたりしないでください。
- (2) このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一、使用中に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたってからは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- (3) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (4) カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- (5) レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーン、フィルム室内などにゴミがついているときは、市販のプロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (6) シャッター幕は非常に薄い幕でできています。お手入れには必ずブロワーを使用し、あまり強く吹かないでください。強く吹くとシャッター幕の変形や破損の恐れがあります。またフィルムを出し入れする際にもシャッター幕に触れないようご注意ください。
- (7) カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- (8) カメラを長期間使用しないときは電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- (9) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にダンスの中なども避けてください。
- (10) 長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- (11) レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように、取り付け面を上にして置いてください。
- (12) メインスイッチを〈OFF〉にしてもカメラは表示パネルのために微弱な電流を必要としますが、撮影本数には影響ありません。

表示パネルについて

カメラの表示パネルやファインダー内表示は液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用でも表示が薄くなり読みにくくなることがあります。その場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください(有料)。なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

リチウム電池について

- (1) カメラはリチウム電池2CR5 1個を正しく入れて、はじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。(→24)
 - 電池を交換したとき
 - 長期間カメラを使用しなかったとき
 - シャッターが切れなくなったとき
 - 寒冷地で撮影するとき
 - その他、大切な写真を撮るとき
- (2) 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよくふき取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- (3) 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- (4) リチウム電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

電圧の低下とカメラの作動について

表示パネルの表示が点滅または無表示になっても、シャッターが切れれば適正な写真が撮影されます。ただし、電池の容量が低下してくると、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあり、表示パネルに表示が点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは<◁>ボタンを押せば継続されます。

レンズの接点について

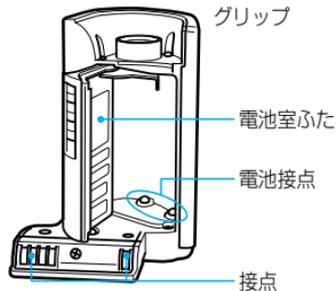
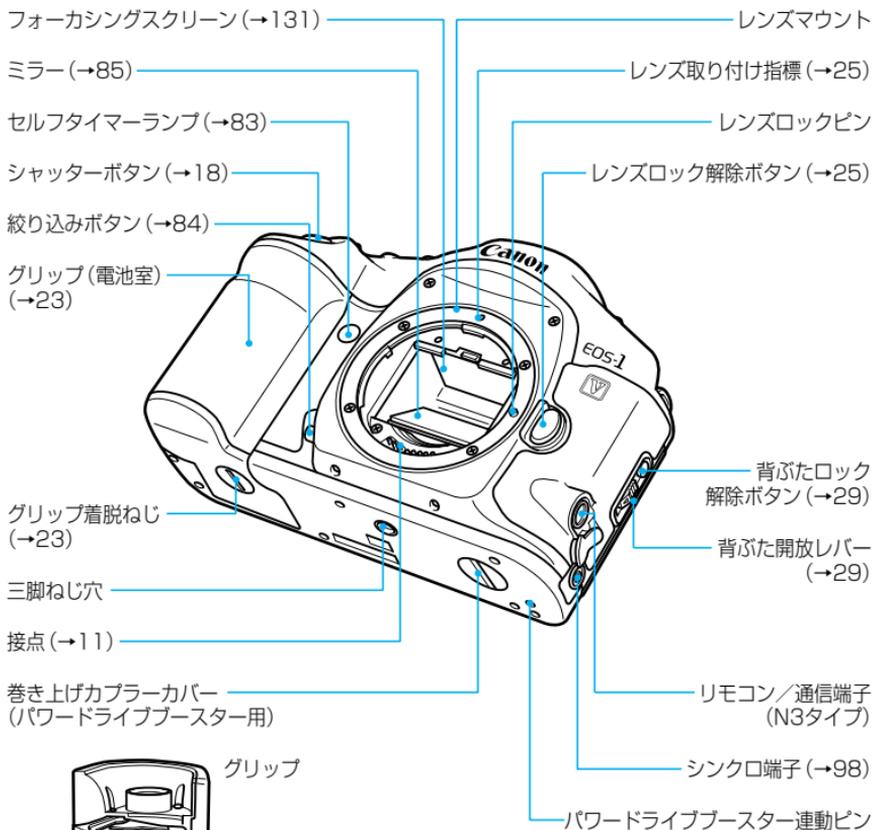
レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



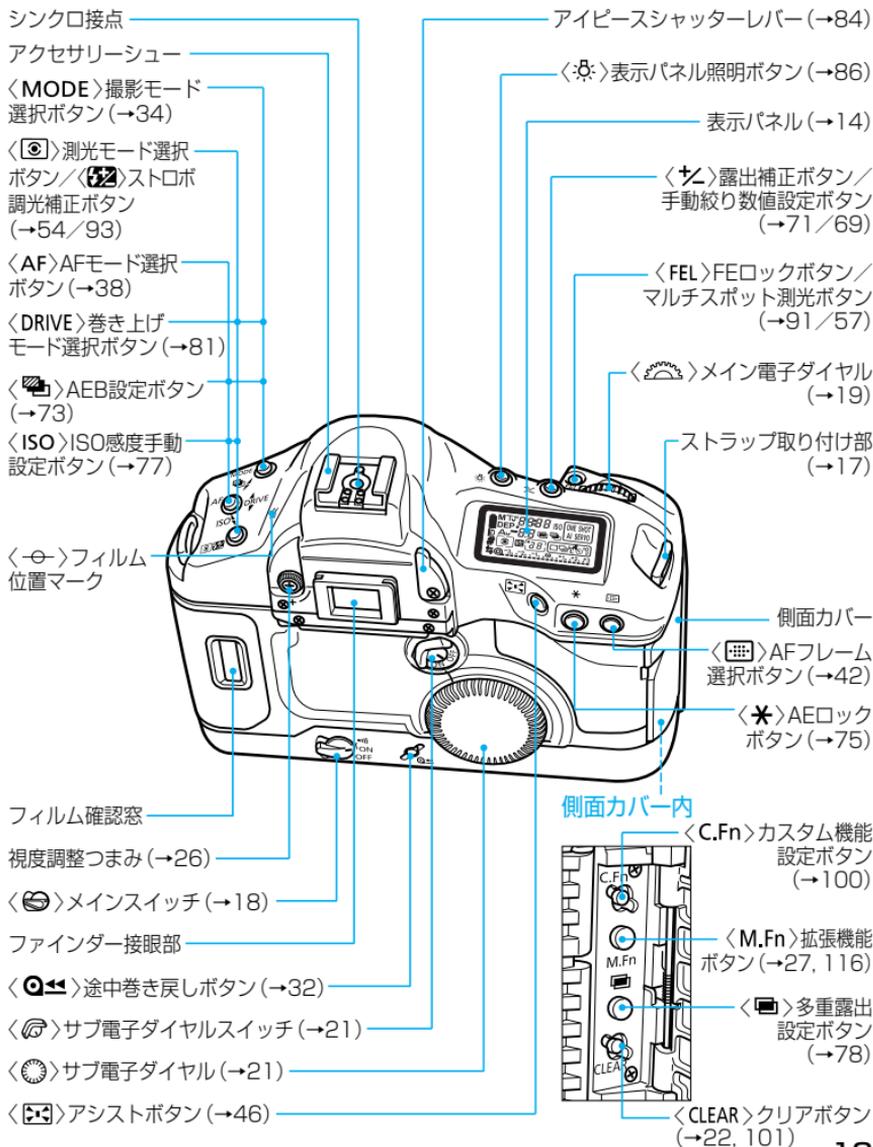
各部の名称

●(→■)の数字は参照ページを示しています。

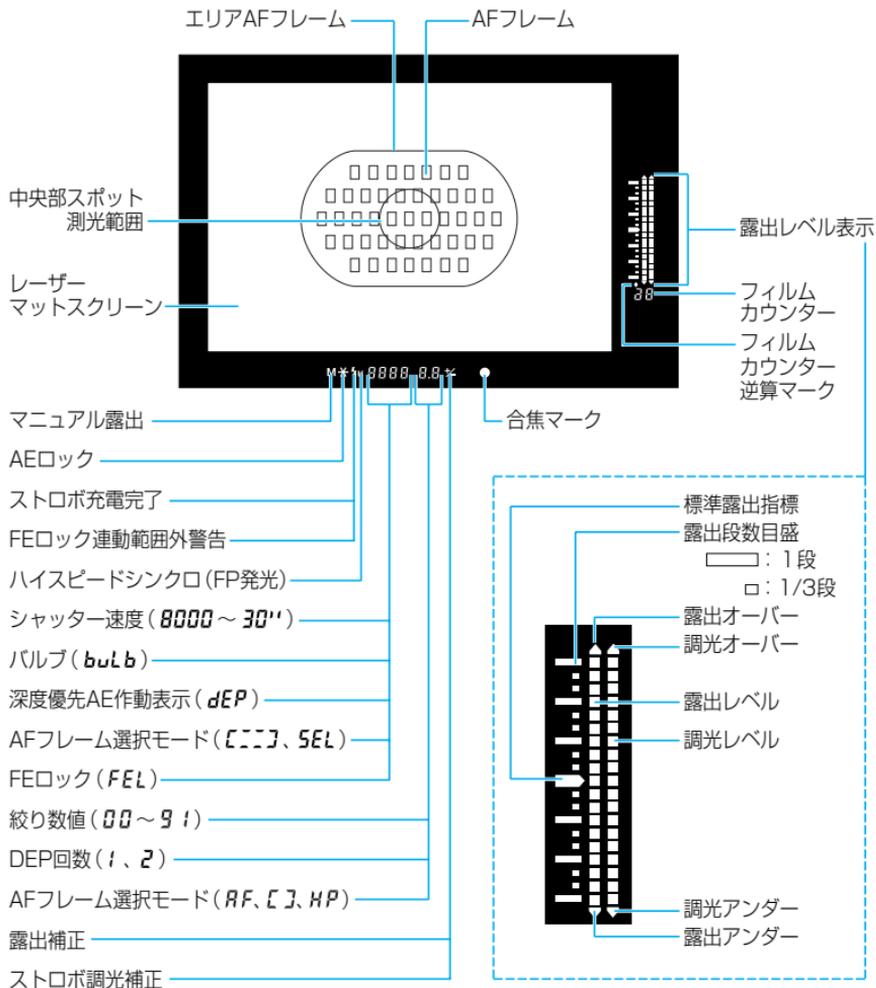
●本文では各ボタン操作をくゝ内表示マークで説明しています。



アイカップ(→26)



ファインダー内表示



14、15ページの図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

本使用説明書の操作説明上のお断り

- 本文中の<🔘>はメイン電子ダイヤル、<🕒>はサブ電子ダイヤル、<🔘>はメインスイッチ、<🔘>はサブ電子ダイヤルスイッチのことです。



- <🔘>スイッチが<ON>になっていることを前提に、それぞれの操作方法を説明しています。各操作をする前に、先ず最初にく<🔘>スイッチを<ON>か<📶>にしてください。



- <🕒>操作は、<🔘>スイッチが<ON>になっていることを前提に操作方法を説明しています。操作する前に<ON>になっていることを確認してください。



- 本文中で左記のマークをつけて、それぞれの機能に関するカスタム機能の簡単なガイドを行っています。詳細については99ページの「カスタム機能」を参照してください。

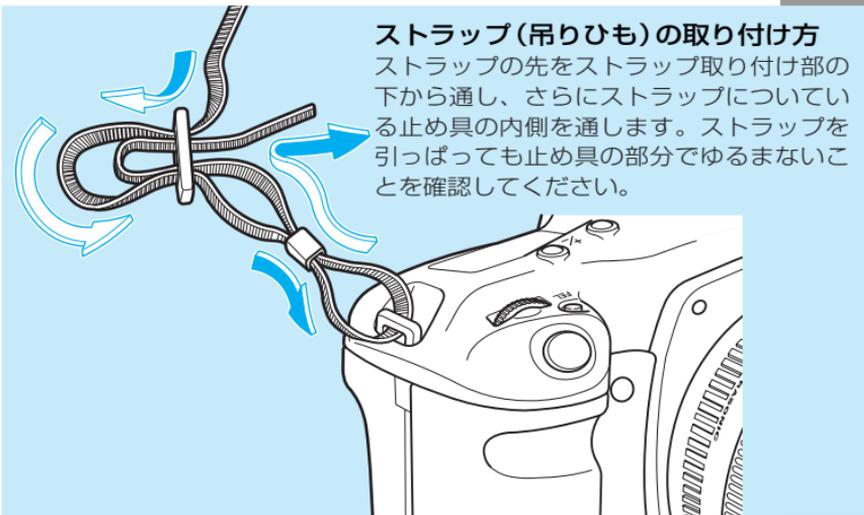
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明にはボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。12ページの「各部の名称」を参照してください。また、(→■)の数字は参照ページを示しています。
- この使用説明書ではEF50mm F1.4USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カスタム機能は初期設定状態を前提に説明しています。
- (🕒6)はボタンから指を離しても、その機能が約6秒間保持されることを示します(6秒タイマー機能)。
- (🕒16)はボタンから指を離しても、その機能が約16秒間保持されることを示します(16秒タイマー機能)。

1

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、EOS-1Vの操作の基本について説明しています。初めての方は、ここから順番にお読みください。

EOSカメラ取り扱いの基礎知識をお持ちで、すぐに撮影を始めたい方は、33ページの「すぐ撮影するには〈P〉プログラムAE撮影」を参照してください。

撮影前の準備と 操作の基本



操作の基本

メインスイッチ

このカメラはを入れて初めて作動します。
には次の3つの設定位置があります。

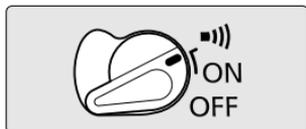


<OFF> : カメラは作動しません。

- カメラを使用しないときは、メインスイッチをこの位置にします。



<ON> : カメラを作動させるときはこの位置にします。



< beep > : <ON>と同じですが、次の状態では電子音が鳴ります。

- ONE SHOT AFでピントが合ったとき。
- 手動ピント合わせでピントが合ったとき。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

シャッターボタンを押す操作は、カメラ全体をにぎるような感じで、静かにゆっくりと行ってください。「半押し」、「全押し」では、それぞれ次のような働きをします。初心者の方は、フィルムを入れる前に練習してください。



半押し

オートフォーカス (Auto Focus/AF、自動焦点) によるピント合わせと自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。露出値 (シャッター速度と絞り数値の組み合わせ) は表示パネルとファインダー内に表示されます。表示は (♻️) が働きます。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。撮影した後は、自動的にフィルムが巻き上げられます。

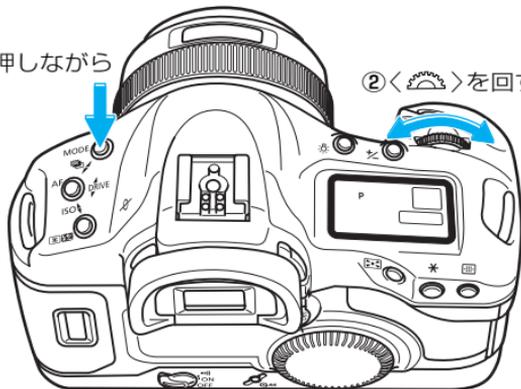
電子ダイヤル操作による機能の選択と設定

◀️ (歯車アイコン) による基本操作には、次の3種があります。

- (1) ボタンを押したまま、表示パネルを見ながら ▶️ (歯車アイコン) を回す。
ボタンから指を離すと撮影準備状態に戻ります。

① ボタンを押しながら

② ▶️ (歯車アイコン) を回す

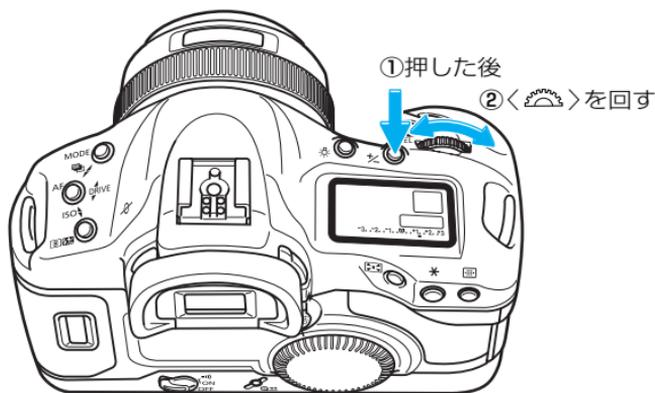


(2) ボタンを押した後、を回す。

ボタンを押すとその機能選択状態がタイマーで保持されます。その間に表示パネルを見ながら  を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると撮影準備状態に戻ります。本文の説明でタイマー保持されるボタン操作には次のマークがつけてあります。

(6) : ボタンから指を離しても、その機能が約6秒間保持されます。

(16) : ボタンから指を離しても、その機能が約16秒間保持されます。



(3) のみを回す。

表示パネルを見ながら、シャッター速度や絞り数値などの設定を行います。

〈〉による基本操作には、次の3種があります。

- (1) ボタンを押しながら〈〉を回す。
- (2) ボタンを押した後〈〉を回す。
- (3) 〈〉のみを回す。

設定内容は表示パネルで確認します。

タイマー機能や撮影準備状態への復帰は〈〉操作に準じます。

〈〉は、次の設定に使用します。

- (1) リアルタイム露出補正
- (2) マニュアル絞り数値設定
- (3) ストロボ調光補正
- (4) AFフレームの選択

〈〉は、〈〉スイッチが〈ON〉になっているときのみ動きます。



OFF : 〈〉を使わないときはこの位置にします。

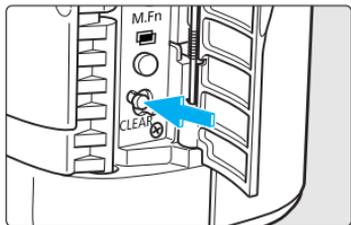


ON : 〈〉を使うときはこの位置にします。

カメラを初期状態に戻すには

EOS-1Vでは、撮影モードや測光モードなどの各機能を自由に選択することができます。また、カスタム機能(→99)を活用すると、操作ボタンの機能やカメラの仕様を自分の好みにあわせて変更することができます。組み合わせや変更した内容を初期状態に戻すには次のようにします。

カメラの各機能設定を初期状態にするには



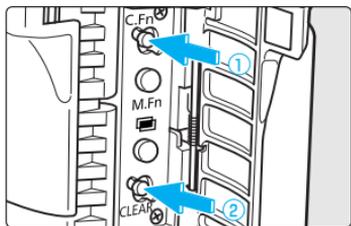
側面カバー内にある〈CLEAR〉ボタンを押す

→カメラの状態は次の表のようになります。

撮影モード	〈P〉プログラムAE
AFモード	ONE SHOT AF
測光方式	評価測光
巻き上げモード	1枚撮影
AFフレームの選択	自動選択
多重露出	解除
露出補正	0(ゼロ)
ストロボ調光補正	0(ゼロ)
AEロック	解除
FEロック	解除
AEB撮影	解除
カスタム機能	設定状態のまま
AFフレームの登録	中央AFフレーム

 この操作をすると、〈P〉プログラムAEで自動撮影を行う準備が自動的に完了します。
(→33)

CF-0(→102)以外の全てのカスタム機能設定を初期状態にするには



側面カバー内の〈C.Fn〉ボタンを押してから、〈CLEAR〉ボタンを押す

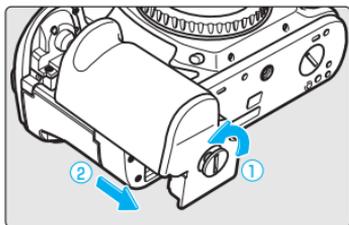
 C.FnはCustom Function(カスタムファンクション)の略でカスタム機能のことです。

電池のセットと容量の確認

電池をセットする

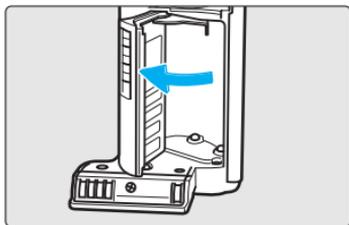
グリップが電池室になっています。グリップを本体から外して電池を入れます。電池はリチウム電池2CR5を1個使用します。

- EOS-1V HSは119ページを参照してください。

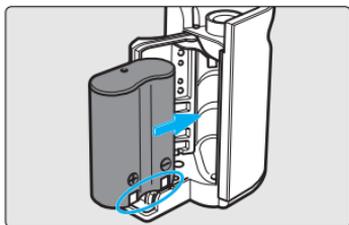


1 グリップを外す

- グリップ着脱ねじを硬貨などを利用して矢印の方向に回してゆるめ、グリップを下にずらして本体から外します。



2 ふたを開く



3 電池を入れる

- 図のように電池接点を右下にして電池を入れ、ふたを閉じます。

4 グリップを取り付ける

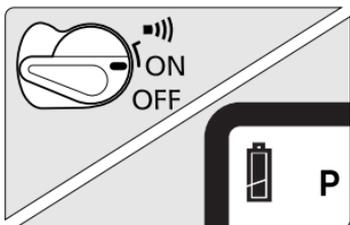
- グリップを本体に取り付け、グリップ着脱ねじを回して完全に止めます。



地域によっては電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真を撮たくさん撮るときは、予備の電池をご用意してください。

電池容量を確認する

電池を交換したときや撮影の前などには、電池の容量を確認してください。



〈〉スイッチを〈ON〉にする

→ 〈〉スイッチを入れると自動的にバッテリーチェックが行なわれ、表示パネルにバッテリーチェックマークが表示されます。

-  : 電池の容量は十分です。
-  : 電池の容量が少なくなっています。新しい電池を用意してください。
-  : もうすぐ電池切れになります。
-  : 新しい電池と交換してください。(→11)

撮影可能フィルム本数

温度	撮影本数
常温(+20℃)	75 (50)
低温(-20℃)	18 (12)

- 撮影本数は、新品電池、EF50mm F1.4USMレンズ、24枚撮りフィルムを使用、当社試験条件による本数です。()内は36枚撮りフィルム使用時の本数です。
- パワードライブプースターPB-E2、E1、バッテリーパックBP-E1使用時には、それぞれの使用説明書を参照してください。

● 〈〉スイッチを〈ON〉にしても、表示パネルに何も表示されない場合は電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れ直してから再度電池容量を確認してください。

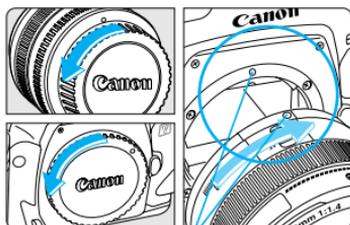
- 実際の撮影条件との違いにより、表記本数よりも少なくなる場合があります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行くと、撮影本数が半分以下になることがあります。

● カメラを使用しないときは〈〉スイッチを〈OFF〉にしてください。カバンの中などで物がシャッターボタンに当たってシャッターボタンが押され続け電池が消耗してしまった、ということが無くなります。

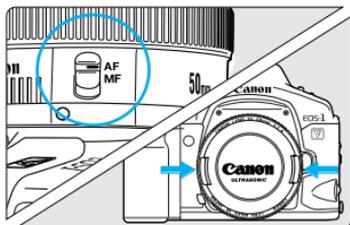
- バッテリーチェックマークの表示は〈〉スイッチを入れたときに更新されます。最新の電池容量を確認したい場合は、〈〉スイッチを入れなおしてください。

レンズを取り付ける・取り外す

レンズの取り付け方

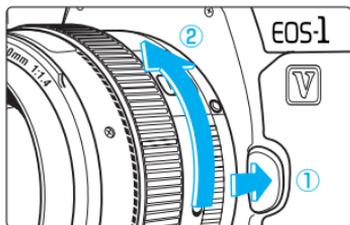


レンズ取り付け指標



- 1 キャップを外す**
 - レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。
- 2 レンズを取り付ける**
 - レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- 3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにする**
 - MF (あるいはM) になっているとオートフォーカスできません。
- 4 レンズキャップを外す**

レンズの取り外し方



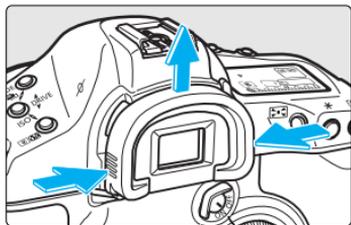
- レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す
- レンズを止まるまで回してから、外してください。



- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。
- **AF**はAuto Focus (オートフォーカス)の略で自動焦点のことです。
- **MF**、**M**はManual Focus (マニュアルフォーカス)の略で手動焦点のことです。

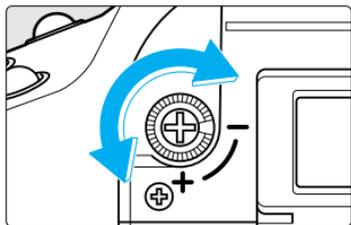
鮮明なファインダーに調整する

ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することによってメガネを使用している方でもメガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は、 $-3\sim+1$ dptの範囲で行うことができます。



1 アイカップを外す

- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。



2 視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームまたは中央部スポット測光範囲マークが最も鮮明に見えるようにつまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準(-1 dpt)の位置です。

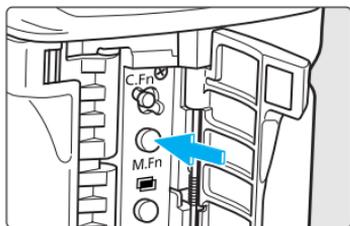
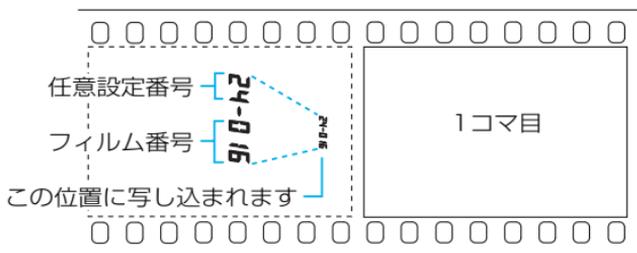
3 アイカップを接眼部に取り付ける

 視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズ(Eシリーズ)のご利用をおすすめします。(→136)

フィルムIDを写し込む

フィルムリーダー部に任意設定番号・2桁と、フィルム番号・3桁を「フィルムID」として自動的に写し込みます。任意設定番号はEOS-1Vを複数台使用するとき、フィルムとEOS-1Vの対応取りに便利です。フィルム番号はフィルムを入れるたびに加算されますので、フィルムの撮影順を確認するときに便利です。またフィルムIDは、EOSリンクソフトウェアES-E1(別売)で、撮影データとフィルムの対応をとる際にも利用します。

- ❶ 写し込みはフィルム空送り後、自動的に行われますので、任意設定番号の設定は、必ずフィルム装填前に行ってください。フィルム装填後は設定できません。なお、フィルム番号の任意設定はできません。



M.Fn : Multi Function
(マルチファンクション)
EOS-1Vの拡張機能を指
します。

任意設定番号
フィルム番号



1 <M.Fn>ボタンを押してフィルムID設定モードにする

- ボタンを押すたびに表示パネル左端の表示が以下の順に変わります。IDマークを表示してください。

IDマーク — ID
PFマーク — #
通信マーク — S

- ➔ 点滅している数字が任意設定番号です。
- フィルム空送り後は、任意設定番号が点灯表示となり、設定できません。

2 <DIAL>を回して任意設定番号を設定する

- 00～99まで設定できます。
- フィルム番号は、001～999まで自動加算され、999を超えると001に戻ります。

フィルムIDを写し込む



- 3 シャッターボタンを半押しする**
→表示パネルが通常の表示に戻り、任意設定番号の登録が終了します。

フィルム空送り後のフィルムID写し込み中は、表示パネルのIDマークが点灯します。(→30)

- 常温での写し込みは瞬時に行われますが、低温下(−10℃)では、写し込みに使用している液晶の応答性が遅くなるため、写し込み完了まで数秒かかります。確実な写し込みを希望される場合は、表示パネルのIDマークが消えるまで撮影を行わないでください。IDマーク表示中に撮影すると、写し込みを中止して撮影が行われます。
- 写し込み保証温度は+45〜−10℃です。−10℃よりも低温下では、液晶の応答性が極端に遅くなるため、フィルムIDが写し込まれないことがあります。
- EOS-1Vで途中巻き戻したフィルムを再装填すると、フィルムIDが重なって写し込まれます。
- フィルムIDが写し込まれたリーダー部は、現像店によっては返却されない場合があります。現像に出す際、事前にリーダー部の返却を申し出てください。

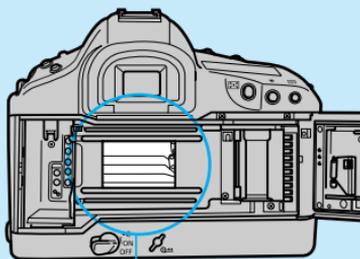
- フィルムID写し込みをOFFにすることはできません。
- 27ページ手順2で〈〉ボタンを押すと、撮影データの残り記憶可能本数が表示されます。これはEOSリンクソフトウェアES-E1(別売)を使う際に利用します。



- 背ぶたをデータバックDB-E2(別売)に換えると、フィルムID写し込みが行われなくなります。

フィルムを入れる・取り出す

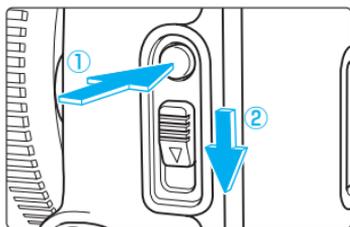
④



シャッター幕

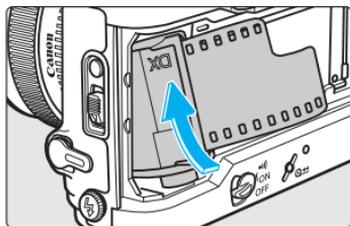
シャッター幕は非常に高い精度で加工されています。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分ご注意ください。

フィルムを入れる



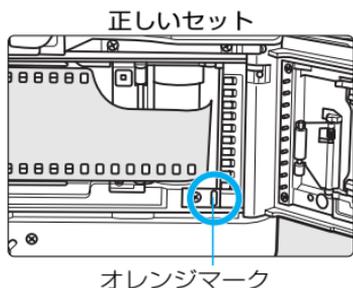
1 背ぶたを開く

- 背ぶたロック解除ボタンを親指の腹側で深く押し、そのまま背ぶた開放レバーを矢印の方向に押し下げて背ぶたを開きます。
- 指1本での操作が難しい方は、背ぶたロック解除ボタンと背ぶた開放レバーを別々の指で操作します。



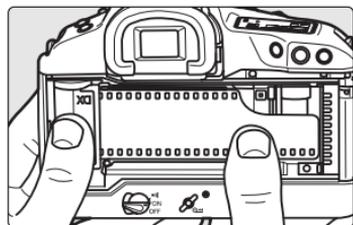
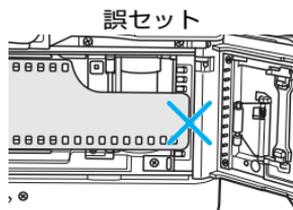
2 フィルムを図のように少し斜めにして入れる

- <ON>スイッチは<ON>にしておきます。



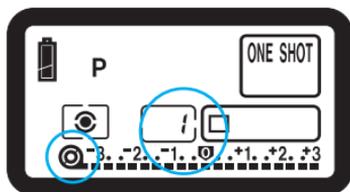
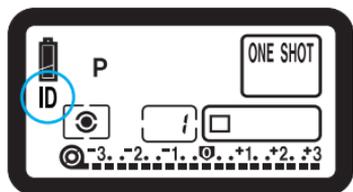
3 フィルムの先端をオレンジマーク（フィルム先端指標）に合わせる

- パトローネを押さえながらフィルムを引き出します。
- フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネ内に少し巻き戻します。



4 背ぶたを閉じる

- フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して、背ぶたを「パチン」というまで閉じます。
- 自動的にフィルムを巻き上げます。
- フィルムIDが写し込まれたあと、表示パネルにフィルムマークとフィルムカウンター「！」が表示されます。





- フィルムが正しくセットされないとフィルム給送表示<■■■>が点滅し、シャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。
- 赤外フィルムも使用できます。(→86)



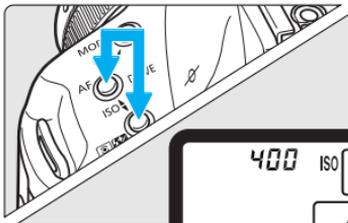
高温・高湿環境下で撮影する場合、フィルムはカメラに入れる直前に梱包から取り出してください。

C.Fn

フィルムカウンターを順算→逆算に切り換えることができます。
(C.Fn-8-1→107)

フィルム感度の設定確認

フィルム感度はカメラがフィルムのDXコードを読み取ることにより自動設定されます。自動設定されるフィルム感度の範囲はISO 25～5000です。



<AF>ボタンと<☉>ボタンを同時に押す

- 表示パネルにISOとそのときに設定されているフィルムの感度が表示されます。



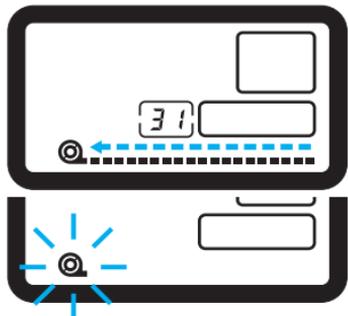
フィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合や、DXコードが付いていないフィルムを使用する場合は、77ページの「フィルム感度の手動設定」をお読みください。

C.Fn

DXコードによるフィルム感度設定を禁止することができます。(C.Fn-3→103)

フィルムを取り出す

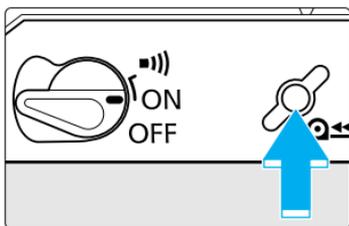
フィルムの最後のコマを撮影すると自動的にフィルムの巻き戻しが始まります。



- 巻き戻しが始めると、表示パネルのフィルム給送表示が右から左に動いて巻き戻し中であることを示します。同時にフィルムカウンター表示部の数字も一つずつ減っていきます。
- 巻き戻しが終了すると自動的に巻き戻しは停止します。表示パネルの◉が点滅していることを確認してからフィルムを取り出します。

◉◀ フィルム途中巻き戻し

フィルムを撮り終える前に取り出すときは次のようにします。

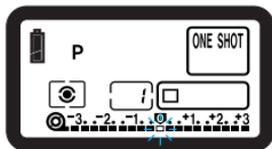


- 1 ◉◀ ボタンを押す
→ フィルムの巻き戻しが始まります。その後の作動と操作は自動巻き戻しと同じです。
- 2 フィルムを取り出す

💡 フィルム巻き戻し中に、◉◀ ボタンを押すと、高速巻き戻しと低速（静粛）巻き戻しの切り換えを行うことができます。

C.Fn フィルムの巻き戻しの速度や方法を変更することができます。(C.Fn-1→102)

C.Fn 巻き戻しが終わるとフィルムの先端をパトローネに巻き込みますが、これを巻き込まないようにすることができます。(C.Fn-2→103)



プログラムAEを利用して簡単な撮影を試みましょう。プログラムAEは被写体の明るさに応じて、撮影時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（露出値）をカメラが自動的に設定します。どなたにも気軽に撮影を楽しんでいただくことができます。ファインダーの広い範囲をカバーしているエリアAFフレームを利用して、いろいろな被写体を自由な構図で撮ってみましょう。

すぐ撮影するには 〈P〉プログラムAE撮影



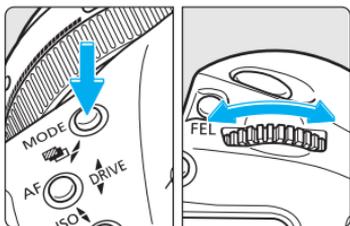
あらかじめ〈〉スイッチを〈ON〉に設定してください。



カメラの初期設定を行うと、自動的にプログラムAE撮影の準備が完了します。
(→21)

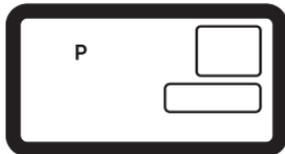


AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



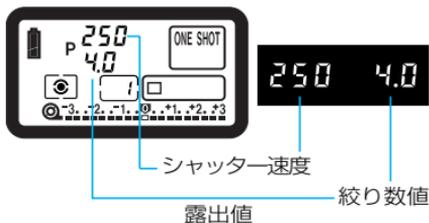
1 表示パネルの<P>を選択する

- <MODE> ボタンを押しながら  を回して<P>を選択し、<MODE> ボタンから指を離します。



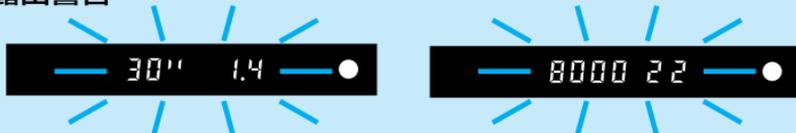
2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてエリアAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➔ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬光ります。同時にファインダー内に緑色の合焦マーク(●)が表示されます。
- ➔ 表示パネルとファインダー内に露出値が表示されます。
- 合焦マーク(●)が点滅するときは、シャッターが切れません。51ページ「AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)」を参照してください。



3 露出値が点滅していないことを確認して撮影する

露出警告



露出値が点滅するときは露出が不適当です。撮影できますが明るすぎたり暗すぎたりした写真になります。詳しくは128ページ「露出警告表示一覧表」を参照してください。



- ピントが合うとAFフレームが一瞬光ります。AFフレームが任意選択(→42)されている場合、(A6)タイマーが作動している間、淡く点灯します。
- AFフレームが自動選択(→42)になっている場合は、同じピント位置のAFフレームが複数点灯します。

プログラムシフトについて

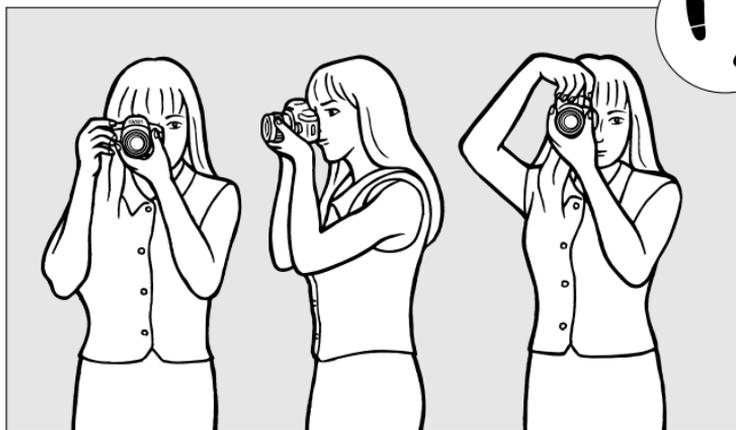
〈P〉プログラムAEでは露出を変えずに、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を変更することができます。これをプログラムシフトといいます。シャッターボタンを半押しした後〈A6〉を回して、希望するシャッター速度または絞り数値に設定します。



プログラムシフトは撮影すると解除されます。

カメラの構え方

鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。

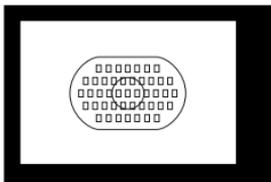


横位置

縦位置

- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに片足を軽く踏みだして体を安定させます。

 このカメラはカメラの横位置、縦位置を自動的に検出しています。カメラの構え方（横位置、縦位置）を変えると、カメラ内でこの検出機構が発する小さな音がします。



エリアAFフレーム内には、45のAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図に合わせてオートフォーカスの作動特性を選択することができます。

3

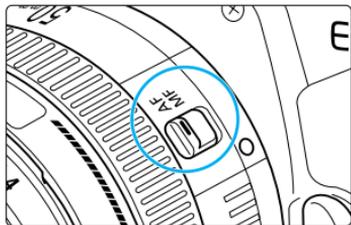
オートフォーカス(AF)と ピント合わせ



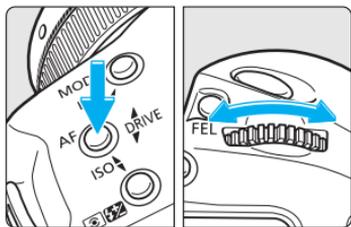
あらかじめ \odot スイッチと \odot スイッチを \langle ON \rangle に設定してください。

AFモードの選択

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適しているONE SHOT AF(ワンショットオートフォーカス)と、動いている被写体の撮影に適しているAI SERVO AF(エーアイサーボオートフォーカス)の2種類があります。被写体の状況にあわせて選択します。

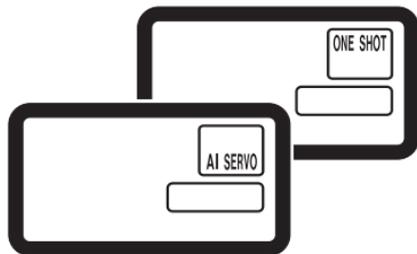


1 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにセットする

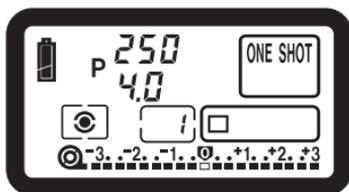


2 AFモードを選択する

- カメラの〈AF〉ボタンを押しながら〈〉を回します。表示パネルのAFモードを選択して〈AF〉ボタンから指を離します。



止まっている被写体を撮るときはONE SHOT AF



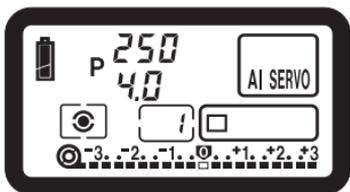
シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせます

- ▶ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬光り、同時にファインダー内に合焦マーク(●)が点灯します。
- 評価測光では合焦と同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影(→49)ができます。



- <Ⓢ>スイッチを<●>にしておくと同様に電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク(●)が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、51ページの「AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)」を参照してください。

動いている被写体を撮るときはAI SERVO AF



シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます

- 撮影距離がたえず変わる(移動している)被写体の撮影に適しています。
- 動体予測機能*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。



- ピントが合ってもファインダー内の合焦マークは点灯せず、電子音も鳴りません。
- ファインダー内の合焦マークが点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影はできません。(カスタム機能C.Fn-4-2設定時を除く)

* 動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる場合、または遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

任意のAFフレームを選択しているときは、赤く光ったそのAFフレームで動体予測を行います。

AFフレーム自動選択のときは、初めに中央で被写体をとらえます。AF中に被写体が中央から外れても、エリアAFフレーム内で被写体を確実にとらえていれば動体予測を続けます。AFフレームは光りません。

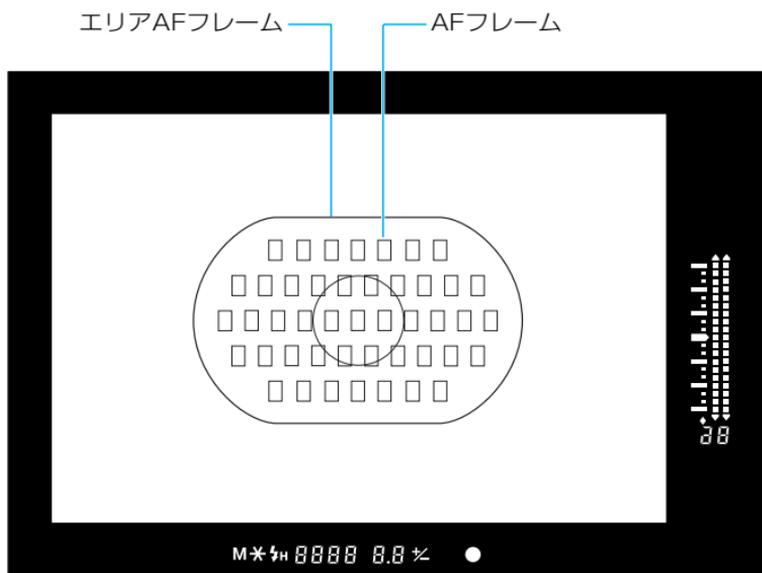
C.Fn AI SERVO AF作動中に、**<★>** ボタンを押すと、押している間ピントを一時固定することができます。(C.Fn-4-2→104)

C.Fn AI SERVO AF時に、選択されているAFフレームを**<☉>** で変えながら被写体を追うことができます。(C.Fn-11-2→109)

エリアAFフレームとAFフレーム

エリアAFフレームとは被写体にピントを合わせるエリアのことをいいます。エリアAFフレーム内には45点のAFフレームが配置されており、ファインダーの広い範囲でAFが可能です。AFフレームの位置を気にすることなく自由な構図で撮影に専念することができます。被写体がエリアAFフレーム内であればカメラが自動的にピントを合わせます。

AFフレームの配置



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

AFフレームの選択

AFフレームの選択には自動選択と任意選択があります。

●自動選択

45点のAFフレームの中から、撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピント合わせを行います。

●任意選択 (選択できるAFフレームの数によって3種類あります)

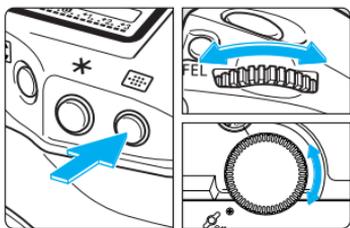
①45点のAFフレームから任意の1点を選択します。

②11点のAFフレームから任意の1点を選択します。(C.Fn-13-1, 2)

③9点のAFフレームから任意の1点を選択します。(C.Fn-13-3)

* ②③はカスタム機能C.Fn-13を設定して行います。カスタム機能の設定方法は、100ページ「カスタム機能の設定」を参照してください。

AFフレーム選択の基本操作



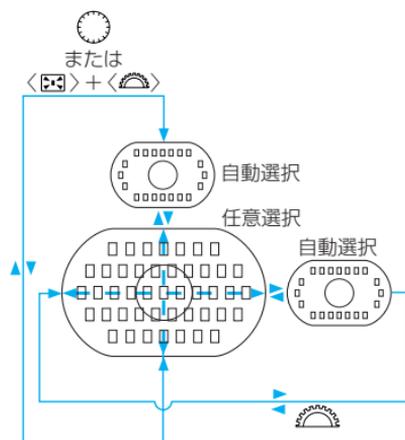
- AFフレームは<AF-ON>ボタンを1度押したあと、<AF-ASST>と<AF-ASST>の組み合わせで自在に選択することができます。

横方向のAFフレーム選択

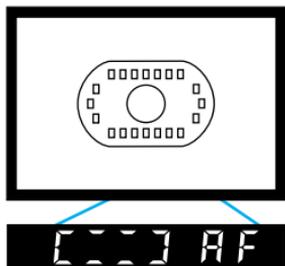
- <AF-ON>ボタンを押して<AF-ASST>を回します。
- ➔ AFフレームが横方向に移動します。

縦方向のAFフレーム選択

- <AF-ON>ボタンを押して<AF-ASST>を回します。
- 縦方向のAFフレーム選択は、<AF-ON>ボタンを押したあと、<AF-ON>ボタンを押しながら<AF-ASST>を回すことでも可能です。
- ➔ AFフレームが縦方向に移動します。
- シャッターボタンの半押し、またはタイマー(06)が切れると撮影準備状態に戻ります。



自動選択

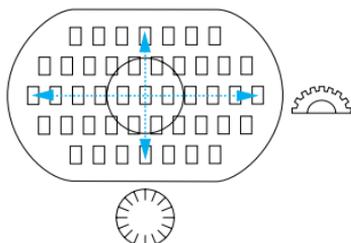


〈〉ボタンを押して〈〉を回します

- ファインダー内表示が図のようになるまで回します。〈〉でも同様に設定できます。
- 1番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。
C.Fn-13-1, 2, 3のときにも設定できます。

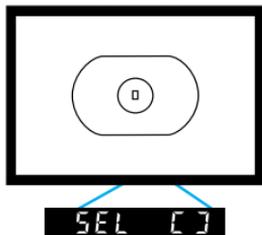
任意選択

①45点のAFフレーム任意選択

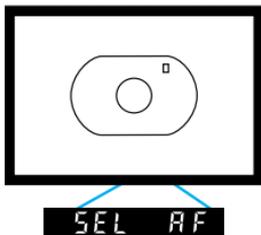


- 選択方法は、AFフレーム選択の基本操作と同じです。
- 縦方向のAFフレームは1点(□)→2点(□□)→1点(□)と選択されます。

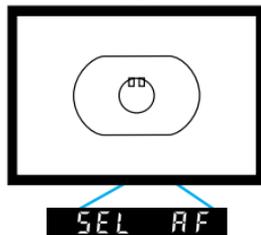
中央選択



中央以外の選択



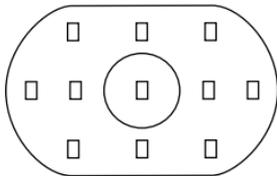
2点自動選択



(□□)の状態では撮影すると2点による自動選択AFになります。また、この状態で左右に移動すると1点ずつの選択になります。

② 11点のAFフレーム任意選択 C.Fn-13-1, 2 (→110)

構図優先の撮影に有効な11点のAFフレームが設定されます。AFフレームの選択方法は、45点の任意選択と同じですが、AFフレーム数が少なくなるので、選択機動性が向上します。(→110)

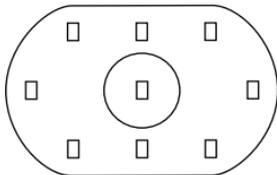


- 11点の中から任意のAFフレームを選択することができます。
- AFフレームの選択方法は、AFフレーム選択の基本操作と同じです。

C.Fn AFフレームに連動したスポット測光ができます。(C.Fn-13-1→56, 110)

③ 9点のAFフレーム任意選択 C.Fn-13-3 (→110)

エリアAFフレーム外周8点のAFフレームと中央AFフレームが設定されます。外周8点は $\langle \text{☉} \rangle$ の回転にあわせて直感的に回転しますので、選択機動性がさらに向上します。(→110)

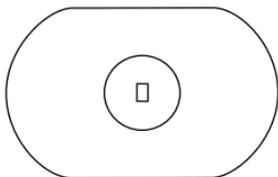


- 9点の中から任意のAFフレームを選択することができます。
- 横方向のAFフレーム選択方法は、AFフレーム選択の基本操作と同じです。1番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。

外周AFフレームを選択する

- $\langle \text{☉} \rangle$ ボタンを押して $\langle \text{☉} \rangle$ を回します。
- $\langle \text{☉} \rangle$ の回転方向にあわせて外周にある8点のAFフレームを迅速に選択することができます。

C.Fn $\langle \text{☉} \rangle$ 単独で外周AFフレームを選択することができます。(C.Fn-11-2→109)



中央AFフレームを選択する

- <AF-ON> ボタンを押して <AF-ON> ボタンを押します。
- ➡ 瞬時に中央AFフレームが選択されます。



スポット測光を選択すると、AFフレームに連動したスポット測光ができます。
(→56)

C.Fn

<AF-ON> ボタン単独押しで中央AFフレームを選択したり、<AF-ON> ボタンを押している間だけ中央AFフレームを選択することができます。(C.Fn-18→113)

C.Fn

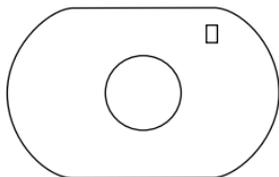
AFフレームの任意選択方法を変えることができます。

- (1) <AF-ON> ボタンの代わりに <AF-ON> ボタンを使う。(C.Fn-11-1→109)
- (2) <AF-ON> ボタンの代わりに <AF-ON> ボタンを使う。または <AF-ON> 単独で行う。
(C.Fn-11-2→109)
- (3) AFフレーム任意選択から自動選択に切り換えることができます。
(C.Fn-11-2→109)
- (4) <AF-ON> ボタンの代わりに <FEL> ボタンを使う。(C.Fn-11-3→109)

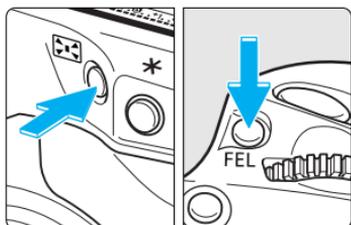
AFフレームの登録と切り換え

よく使うAFフレームをあらかじめ登録しておくことで、他のAFフレームから、瞬時に登録AFフレームへの切り換えができます。中央以外のAFフレームを登録した構図優先の設定や、AFフレーム自動選択を登録したシャッターチャンス優先の設定など、撮影目的に応じてAFフレームを登録します。すべてのAFフレームが登録対象となります。複数登録はできません。

AFフレームの登録



1 <MENU> ボタンを押し (M6)、<AF-ON> <AF-ON> を回してAFフレームを選択する



2 <AF-ON> ボタンを押しながらくFEL> ボタンを押す

- ➡ 選択したAFフレームが登録されます。
- 登録時の表示は、選択したAFフレームによって異なります。登録AFフレームへ切り換えた時にも同じ表示がでます。

自動選択



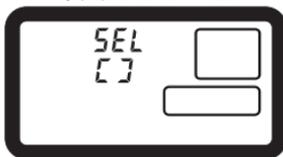
AF-ON HP

中央以外のAFフレーム



SEL HP

中央AFフレーム



SEL AF-ON

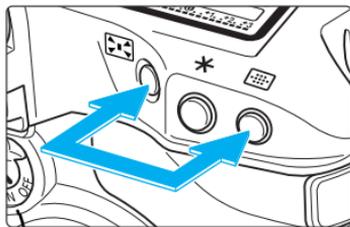
⚠ ストロボ使用時とスポット測光時は<AF-ON> ボタンを先に押してください。<FEL> ボタンを先に押すとAFフレーム選択状態が解除されます。



- 11点のAFフレーム任意選択時 (C.Fn-13-1, 2) にも同様に登録することができます。(→110)
- 9点のAFフレーム任意選択 (C.Fn-13-3) では、AFフレームの登録はできません。(→110)
- SEL HPのSELはSELECT、HPIはHOME POSITIONの略です。

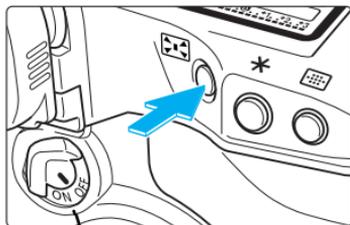
登録AFフレームへの切り換え

初期状態の登録AFフレームへの切り換えは<Fn>ボタンと<Menu>ボタンの同時押しで行いますが、カスタム機能C.Fn-18-1, 2(→113)を設定することにより、<Fn>ボタン単独押しで切り換えることができます。カスタム機能の設定は、100ページ「カスタム機能の設定」を参照してください。



①<Fn>ボタンと<Menu>ボタンの同時押しで切り換え

- カスタム機能を設定しない初期状態の切り換え方法です。



②<Fn>ボタン単独押しで切り換え C.Fn-18-1 (→113)

③<Fn>ボタン単独押しで、押ししている間だけ、切り換え C.Fn-18-2 (→113)

- <Fn>ボタンを離すと元のAFフレームに戻ります。



AFフレームの登録を行っていない場合は、中央AFフレームに切り換わります。



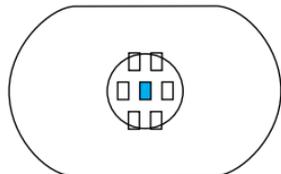
C.Fn-18-1, 2とC.Fn-4-1.3を組み合わせて設定すると<Fn>ボタン単独押しで登録AFフレームへの切り換えとAFスタートを同時に行うようにすることができます。

AFフレームの領域拡大 C.Fn-17

カスタム機能を利用して、任意選択したAFフレームの領域を広げることができます。(C.Fn-17→112)

●7点自動選択AFに拡大する C.Fn-17-1 (→112)

任意の1点では追従しづらい不規則に変化する被写体を撮影する場合に効果的です。



■：選択したAFフレーム
□：拡大したAFフレームの領域

- 拡大したAFフレームの領域は表示されません。
- ONE SHOT AFでピントが合うと、選択したAFフレームと、ピントの合ったAFフレームが点灯します。

●7点あるいは13点AFに自動拡大する C.Fn-17-2 (→112)

使用レンズの焦点距離や、AFモード、AI SERVO AF時の被写体の速さなどに応じて下図のように、AFフレームの領域を自動拡大します。被写体の動きが予測できないような場合に効果的です。

AFモード	使用レンズの焦点距離	
	300mm未満	300mm以上
ONE SHOT AF	<p>AFフレームの自動拡大は行いません。</p>	<p>1領域拡大</p>
AI SERVO AF	<p>被写体が低速の場合 → 被写体が高速の場合</p>	<p>被写体が低速の場合 → 被写体が高速の場合</p>

* カスタム機能の設定は、「カスタム機能の設定」(→100)を参照してください。

画面の端の被写体にピントを合わせる

エリアAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときには次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

- フォーカスロック撮影はAFモードがONE SHOT AFに設定されているときに有効です(→39)。



1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。



2 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える

3 撮影する

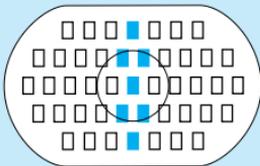


合焦と同時にAFフレームに連動したAEロックがかかるONE SHOT AFと評価測光の組み合わせをおすすめします。

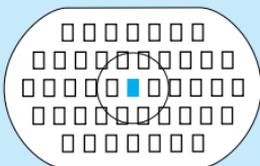


使用レンズの明るさとEOS-1VのAF測距について

EOS-1VのAFは、すべてのAFフレームで被写体の横線成分を検出するのが基本となっていますが、使用するレンズの明るさによっては、さらに高精度なAFピント合わせが可能となっています。

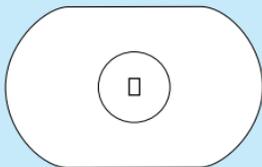


- (1) F2.8よりも明るい大口径レンズ使用時、図の色で示したAFフレームでは、十字測距（縦線横線同時検出）による高精度AF撮影が、残る38のAFフレームでは横線検出によるAF撮影ができます。縦線検出は、横線検出の約3倍の敏感度で行われます。F3.5より暗いレンズでは、(2)のLタイプレンズを除き、45点すべてのAFフレームで横線検出によるAF撮影ができます。



- (2) 単体およびエクステンダーとの組み合わせでF4より明るい次のLタイプレンズでは、中央のAFフレームで十字測距による高精度AF撮影ができます。残る44のAFフレームでは横線検出のAF撮影（EF70-200mm F2.8L USM+エクステンダーEF1.4X除く）ができます。

- ・ EF28-80mm F2.8-4L USM
 - ・ EF300mm F4L USM
 - ・ EF300mm F4L IS USM
 - ・ EF500mm F4L IS USM
 - ・ EF600mm F4L USM
 - ・ EF600mm F4L IS USM
 - ・ EF70-200mm F4L USM
- エクステンダーEF1.4Xとの組み合わせ：
- ・ EF200mm F2.8L USM
 - ・ EF200mm F2.8L II USM
 - ・ EF300mm F2.8L USM
 - ・ EF300mm F2.8L IS USM
 - ・ EF400mm F2.8L USM
 - ・ EF400mm F2.8L II USM
 - ・ EF400mm F2.8L IS USM
- エクステンダーEF2Xとの組み合わせ：
- ・ EF135mm F2L USM
 - ・ EF200mm F1.8L USM



(3) エクステンダーとの組み合わせで、F8より明るい次のLタイプレンズでは、中央のAFフレームで横線検出によるAF撮影ができます。中央以外のAFフレームによるAF撮影はできません。

● エクステンダーEF1.4Xとの組み合わせ：

- ・ EF400mm F5.6L USM
- ・ EF500mm F4.5L USM
- ・ EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM

● エクステンダーEF2Xとの組み合わせ：

- ・ EF300mm F4L USM
- ・ EF300mm F4L IS USM
- ・ EF500mm F4L IS USM
- ・ EF600mm F4L USM
- ・ EF600mm F4L IS USM
- ・ EF70-200mm F4L USM

● <AF-ON> ボタンを押すと表示パネルに右の表示がでます。

AF

AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない(合焦マークが点滅する)ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- (a) コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体…………… 例：青空、単色の平面など
- (b) 非常に暗い場所にある被写体
- (c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体…… 例：反射光の強い車のボディ
- (d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態…… 例：おりの中の動物

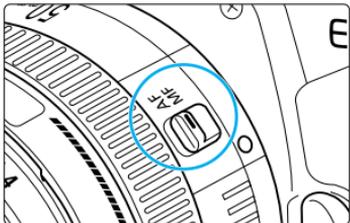
これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

- (1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
- (2) レンズのフォーカスモードスイッチを**MF**(または**M**)にして手動でピント合わせを行う。



ストロボやST-E2のAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。中央以外のAFフレームではピントが合わないことがあります。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)



1 レンズのフォーカスモードスイッチをMF (またはM) に切り換える

- 表示パネルのAFモード表示が全て消えます。

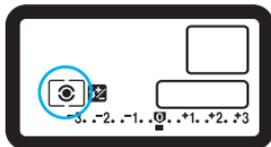
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

- AFフレームを任意に選択して、シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、選択しているAFフレームでピントが合ったときはそのAFフレームが光り合焦マークが点灯します。
- AFフレーム自動選択の場合は、中央のAFフレームでピントが合ったときにAFフレームが光り、合焦マークが点灯します。
- USM (Ultrasonic Motor/超音波モーター) レンズのとき
USMレンズ (距離目盛りのないUSMレンズをのぞく) はONE SHOT AFで作動した後そのままフォーカスリングを操作してピントを微調整(フルタイムマニュアル)することができます。

C.Fn 電子式の手動フォーカスリングを採用しているUSMレンズ (EF200mm F1.8L など) では、レンズのフォーカスモードスイッチを**MF** (または**M**) にしないと手動ピント合わせができないように変更することができます。(C.Fn-7→106)

測光モードには、評価測光、部分測光、スポット測光、中央部重点平均測光があります。さらにスポット測光には中央部スポット測光、AFフレーム連動スポット測光、マルチスポット測光があります。撮影状況や撮影意図に合わせて選択してください。



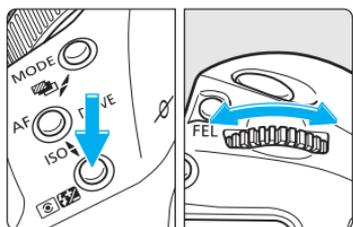
-  評価測光
-  部分測光
-  スポット測光
-  中央部重点平均測光

4 撮影目的に合わせた測光方式の選択



あらかじめ<MUTE>スイッチを<ON>に設定してください。

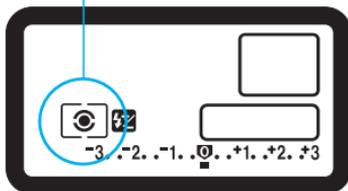
測光モードの選択方法



1 測光モードを選択する

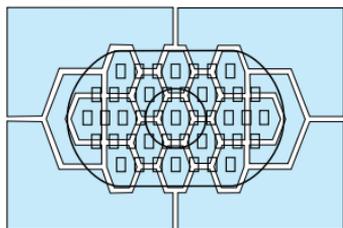
●〈〉ボタンを押しながら〈〉を回し、希望する測光モードを選択します。

- 評価測光
- 部分測光
- スポット測光
- 中央部重点平均測光



2 〈〉ボタンから指を離す

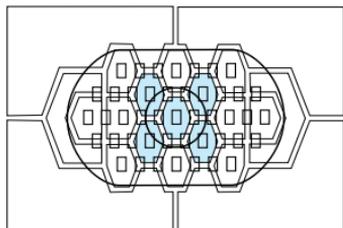
測光モードの種類



📷 評価測光

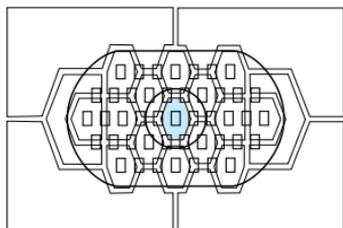
逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。ファインダー内を21に分割して全てのAFフレームに連動した評価測光を行います。ファインダー内に占める主被写体の大きさ、位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し主被写体を常に適正な露出値にします。

- 手動ピント合わせ時は常に中央のAFフレーム基準の評価測光になります。
- 主被写体が極端な逆光下にあったり強いスポットライトを浴びているような、主被写体と背景に極端な明暗差があるときは、部分測光 (☒) またはスポット測光 (☑) の使用をおすすめします。



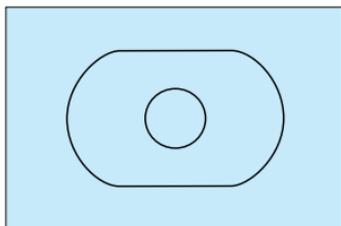
📷 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約8.5%の範囲を測光します。



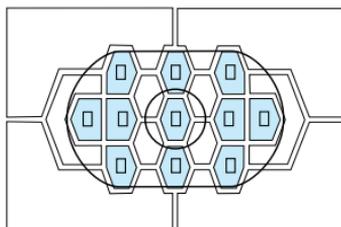
📷 スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときには有効です。ファインダー中央部の約2.4%を測光します。



☐ 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均に測光します。



AFフレーム連動スポット測光

機動性を上げるためカスタム機能C.Fn-13の設定によってエリアAFフレーム内の45点のAFフレームを11点 (C.Fn-13-1)、または9点 (C.Fn-13-3) に限定し、任意に選択したAFフレームの周囲のみ (ファインダーの約2.4%の範囲) を測光します。(→44, 45, 110)

 スポット測光で連続撮影中は自動的にAEロック撮影になりますが、ファインダー内に<✳>は点灯しません。

C.Fn エリアAFフレームの45のAFフレームの内、AFフレームを11点に限定して中央部スポット測光することができます。(C.Fn-13-2→44, 110)

マルチスポット測光

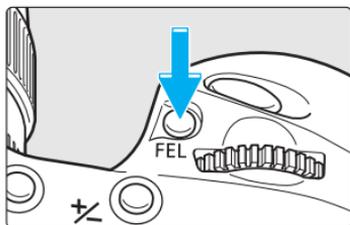
撮影画面のどこに露出の重点をおくかを考え、いくつかの場所をスポット測光します。以下の例では次のようにマルチスポット測光を行います。



1 スポット測光を選択する(→54)

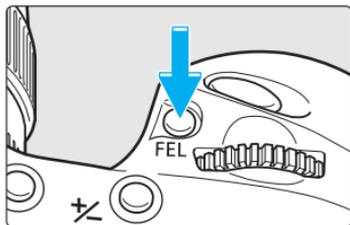
2 暗い部分①をねらい、〈FEL〉ボタンを押す

→ 1回目のスポット測光が行われます。

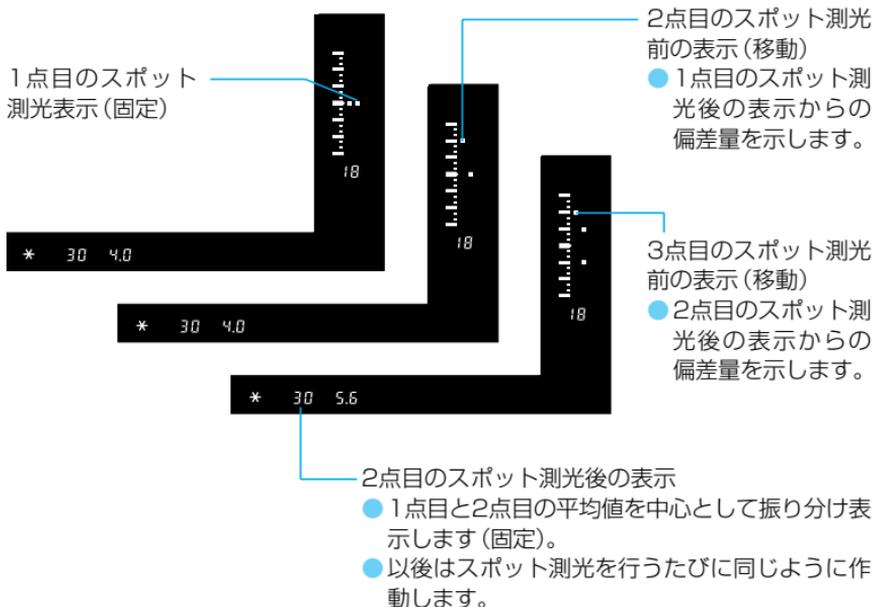


3 ひきつづき中輝度②の部分、最も明るい部③をねらい、それぞれ〈FEL〉ボタンを押す

→ スポット測光するたびにファインダー下部に各露出値を平均化した値(シャッター速度と絞り数値)が表示されます。次ページの「マルチスポット測光時の露出表示」の図を参照してください。右側の露出レベル表示が振り分けられて移動します。3ヶ所のスポット測光の場合はマークが3つ表示されます。



マルチスポット測光時の露出表示



● マルチスポット測光による露出値の記憶は次の条件で解除されます。

- (1) スポット測光後、16秒経過したとき。
- (2) <☉>ボタン、<MODE>ボタン、<AF>ボタンを押したとき。
- (3) 撮影後、シャッターボタンから指を離したとき。

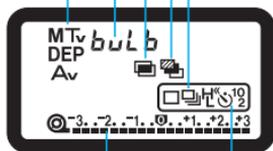
🔊 スポット測光は8点まで行うことができます。9点目からは<FEL>ボタンを押しても測光は行われません。

📷 マルチスポット測光は中央部スポット測光とAFフレーム連動スポット測光で利用できます。

被写体や撮影目的に合わせて、最適な撮影モードを選択することができます。そして、簡単な操作でさまざまな写真表現を行うことができます。

- M** : マニュアル露出 (→69)
- Tv** : シャッター優先AE (→60)
- DEP** : 深度優先AE (→65)
- Av** : 絞り優先AE (→62)

- バルブ (→80)
- 多重露出 (→78)
- AEB (→73)
- :
フィルム巻き上げ
(→81)



- ⊙ :
セルフタイマー
(→83)
- 露出補正 (→71)

5

撮影目的に合わせた 自在な応用撮影



あらかじめ スイッチを **〈ON〉** に設定してください。また、必要に応じて、 スイッチを **〈ON〉** に設定してください。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができます。シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

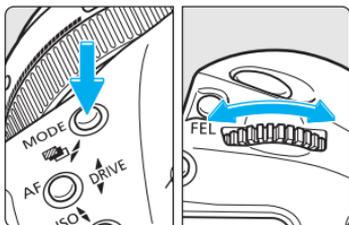
*TvとはTime value (タイムバリュー)の略で時間量のことです。



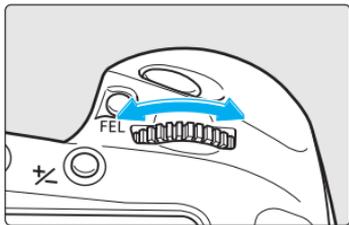
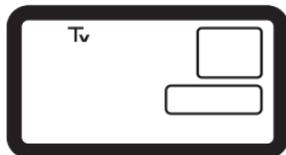
速いシャッター速度



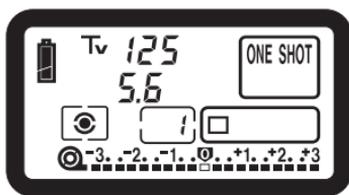
遅いシャッター速度



- 1 表示パネルのTvを選択する
●<MODE>ボタンを押しながら<FELDER>を回してTvを選択し、<MODE>ボタンから指を離します。



- 2 シャッター速度を設定する
●<FELDER>を回して希望するシャッター速度を設定します。



3 ピントを合わせる

→ シャッター速度と絞り数値が表示されます。

4 撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

露出警告

- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。

絞り数値の点滅が止まるまで、ダイヤルを回してシャッター速度を遅くします。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。

絞り数値の点滅が止まるまで、ダイヤルを回してシャッター速度を速くします。



C.Fn セーフティシフト機能を付加することができます。(C.Fn-16→112)

設定したシャッター速度に対して絞り数値が変化しても適正露出が得られないとき、シャッター速度が自動的にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセーフティシフトといいます。

C.Fn 1/3段ステップのシャッター速度の設定を1段または1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-6→106)

Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。

絞り数値を小さくする(開く)と、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする(閉じる)と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。

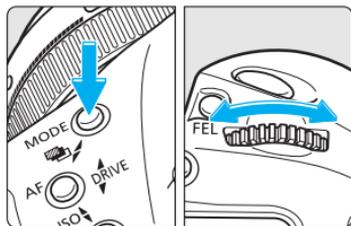
* AvとはAperture value (アパチャーバリュー)の略で開口量のことです。



小さい絞り数値



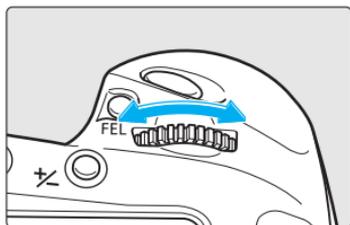
大きい絞り数値



1 表示パネルのAvを選択する

- <MODE> ボタンを押しながらく<設定ボタン>を回してAvを選択し、<MODE> ボタンから指を離します。



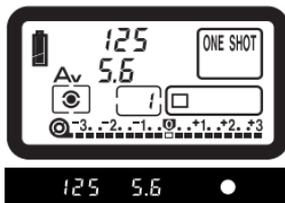


2 絞り数値を設定する

- <絞り数値ダイヤル>を回して希望する絞り数値を設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッター速度と絞り数値が表示されます。



4 撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。
- シャッター速度が「1/使用レンズの焦点距離」以下になると手ブレが起きやすくなりますのでご注意ください。

露出警告

- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、露出アンダーです。シャッター速度の点滅が止まるまでくまのマークを回して絞りを開いて（絞り数値を小さくして）ください。



- シャッター速度の「8000」が点滅するときは、露出オーバーです。シャッター速度の点滅が止まるまでくまのマークを回して絞りを閉じて（絞り数値を大きくして）ください。

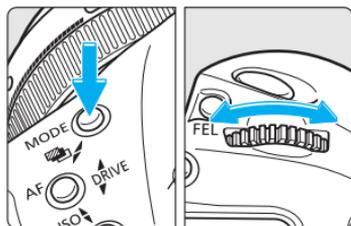


- C.Fn** セーフティシフト機能を付加することができます。(C.Fn-16→112)
設定した絞り数値に対してシャッター速度が変化しても適正露出が得られないとき、絞り数値が自動的にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセーフティシフトといいます。
- C.Fn** 1/3段ステップの絞り数値の設定を1段または1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-6→106)
- C.Fn** 絞り優先AE撮影では、レンズを外した状態でも絞り数値を設定することができます。(C.Fn-5-2, 3→105)

DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

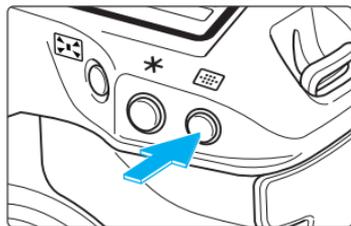
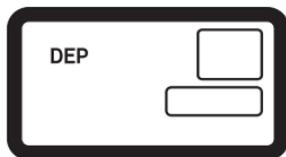
たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るときなどに、鮮明に写したい範囲を指定して写すことができます。近景から遠景までを鮮明に写すために最適なピント位置とそのために必要な絞り数値、それに応じたシャッター速度をカメラが自動的に設定します。これを深度優先AEといいます。

- レンズのフォーカスモードスイッチが**MF** (または**M**) に設定されていると深度優先AE撮影ができません。フォーカスモードスイッチを**AF** に設定します。



1 表示パネルのDEPを選択する

- <MODE> ボタンを押しながら <DEP> を回して **DEP** を選択し、<MODE> ボタンから指を離します。



2 AFフレームを選択する

- <AF-ON> ボタンを押し、<DEP> または <AF-ON> を回してAFフレームを選択します。



3 選択したAFフレームを被写体の1点目に合わせ、シャッターボタンを押す(♻6)

- 合焦マークが点灯し **dEP 1** と表示されます。
- AFフレームが2つ選択されているときは(→43)、2点による自動選択AFでの深度優先AEとなります。



4 同じAFフレームを被写体の2点目に合わせ、シャッターボタンを押す(♻6)

- 合焦マークが点灯し **dEP 2** と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



5 構図を決めシャッターボタンを半押しして、シャッター速度と絞り数値を確認する(♻6)

- 1点目と2点目との中間距離にピントが設定されます。鮮明に写すために必要な絞り数値と、それに対応したシャッター速度が表示されます。
- シャッターボタンから指を離すと表示は **dEP** と絞り数値に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

6 撮影する

露出警告

- 絞り数値が点滅する場合は希望どおりの効果が得られません。（ただしそのまま撮影しても適正露出で撮影されます。）広角レンズを使用するか、被写体から離れて手順「3」～「5」の操作をします。
- シャッター速度の「30」と使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点滅するときは、露出アンダーで深度優先AE撮影できません。
- シャッター速度の「8000」と使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅するときは、露出オーバーです。レンズを通る光の量を減らすNDフィルターを付けて撮影します。



- ズームレンズを使用しているときは、撮影が終わるまでズーム操作をしないでください。
- 深度優先AE撮影操作中にAFフレームを選択しなおすと、設定された深度優先AE撮影のデータが解除されます。その場合は選択しなおしたAFフレームで最初から深度優先AE撮影をします。
- ストロボを使用したときはプログラムAEでのストロボ撮影と同じになります。
- 撮影距離範囲を設定できるレンズ（EF300mm F2.8L IS USMなど）を使用して深度優先AE撮影するときは、レンズの撮影距離範囲選択スイッチを「最短撮影距離～∞」に設定します。

DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

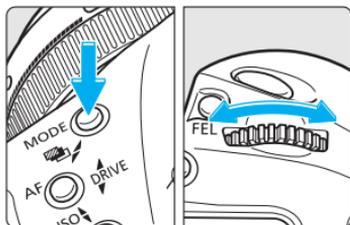
-  ● 自動選択AFフレームによる深度優先AE撮影では、中央のAFフレームのみによるピント合わせになります。
- シャッター速度が遅くなる時は手ブレ防止のため三脚をご使用ください。
- 操作の途中で()が切れると深度優先AEのデータは解除されます。そのときは最初からやりなおしてください。
- 深度優先AE撮影を途中で解除するときは、〈MODE〉ボタンまたは〈AF〉ボタン、〈  〉ボタンのいずれかを押します。

-  ● 被写界深度を深くしたいときは、広角レンズの使用をおすすめします。
- 1点目と2点目のピント合わせを被写体の同じ部分で行うとピントが合う範囲は浅くなります。人物撮影などで、この方法を応用すると人物の前景および背景をぼかした写真を撮ることができます。望遠レンズを使用するといっそう効果的です。

M 自分で露出を決めて撮る

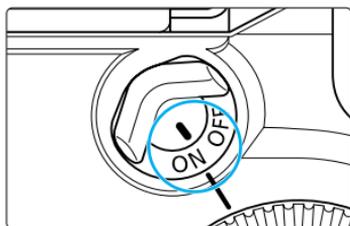
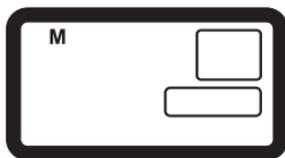
シャッター速度と絞り数値を任意に決めて撮影するときには設定します。露出はファインダー内右の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

内蔵の露出計機能を利用する



1 表示パネルのMを選択する

- <MODE>ボタンを押しながら<露出レベル表示アイコン>を回してMを選択し、<MODE>ボタンから指を離します。



2 <露出計スイッチアイコン>スイッチを<ON>に設定する

3 <シャッター速度アイコン>でシャッター速度を、<絞りアイコン>で絞り数値を設定する

- 絞り数値を<絞りボタン>と<露出レベル表示アイコン>で設定することもできます。

M 自分で露出を決めて撮る



露出レベル表示

標準露出



4 ピントを合わせる

→ 露出値が表示されます。

- ファインダー内右側の露出レベル表示マークで標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

5 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

6 撮影する

C.Fn <  > と <  > の機能を入れ換えることができます。(C.Fn-5→105)

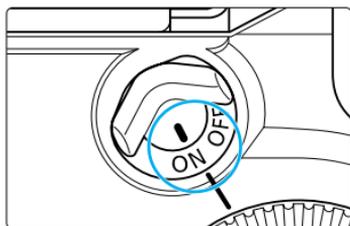
C.Fn 1/3段ステップのシャッター速度および絞り数値の設定を、1段または1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-6→106)

C.Fn レンズを外した状態で絞り数値を手動設定することができます。(C.Fn-5-2, 3→105)

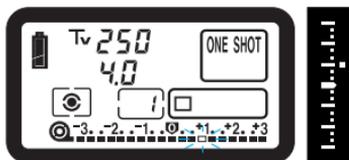
自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。ファインダーをのぞいたまま $\langle \text{☉} \rangle$ で行う方法と、表示パネルを見ながら $\langle \text{☉} \rangle$ ボタンと $\langle \text{☉} \rangle$ で行う方法があります。設定できる補正量は1/3段ステップで±3段の範囲です。

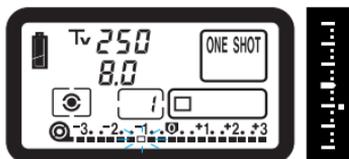
$\langle \text{☉} \rangle$ による補正



- 1 $\langle \text{☉} \rangle$ を $\langle \text{ON} \rangle$ に設定する
- 2 被写体にピントを合わせ露出レベル表示を確認する
- 3 $\langle \text{☉} \rangle$ を回して希望する補正量を設定する



プラス補正表示



マイナス補正表示

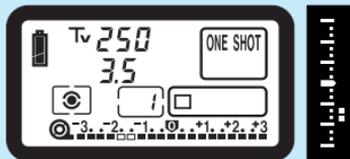
- ファインダー内に露出補正表示(☉)と露出レベル(☉)が、表示パネルに露出レベル(☉)が表示されます。
- $\langle \text{☉} \rangle$ の操作はシャッターボタン半押し中か、シャッターボタン半押し後(☉)作動中のみ有効です。
- ファインダー内表示の上側はプラス補正を、下側はマイナス補正を示します。表示パネルの+側はプラス補正を、-側はマイナス補正を示します。
- 露出補正を解除するときは露出レベルを標準露出指標(☉ または ☉)の位置に戻します。

4 撮影する

C.Fn 露出補正量を1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-6-2→106)

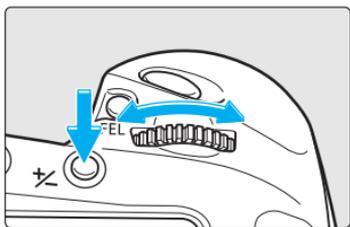
自分の好みに露出を補正する

- カスタム機能C.Fn-6で1/2段ステップに設定したときの、ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

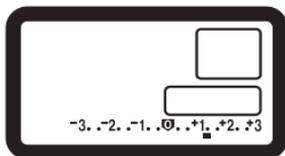


マイナス1½段補正の例

〈+/-〉ボタンとく歯車による補正



〈+/-〉ボタンを押し、(6)作動中にく歯車を回して希望する補正量を設定します。



- 設定した補正量はくOFFスイッチをくOFFにしても記憶されています。
- 不用意にく歯車が動いて補正量が変わらないようご注意ください。くOFFスイッチをくOFFにすると安全です。

露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing) 撮影といいます。設定してある巻き上げモード(81ページ「一枚撮影・連続撮影の切り換え」を参照)で標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。



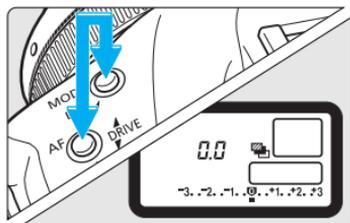
標準露出 (0)



マイナス補正 (-1/3)

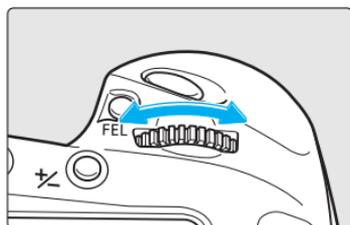


プラス補正 (+1/3)



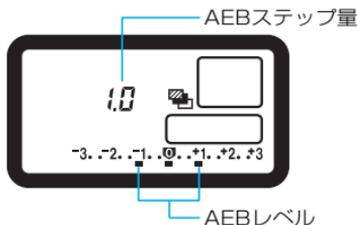
1 <MODE>ボタンと<AF>ボタンを同時に押す

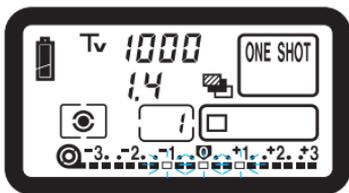
→ 表示パネルに  が表示されます。



2 そのまま を回してAEBステップ量を設定する

→ 表示パネルにAEBステップ量とAEBレベル (■) が表示されます。図は標準露出を中心に1段補正したときの表示です。



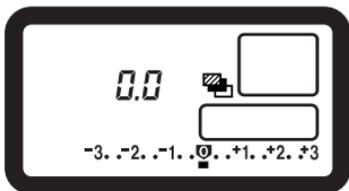


1段ステップの例

3 撮影する

- 設定している巻き上げモードに従って撮影されます
- ➔ ファインダー内の露出レベル表示には撮影順に補正位置が表示されます。
- 連続撮影でシャッターボタンを全押しし続けると、3コマ連続撮影して自動停止します。
- セルフタイマーを併用したときは、2秒または10秒後に、自動的に3コマ連続撮影されます。

- 3コマの撮影が終わるまで表示パネルの  マークとファインダー内の  が点滅してAEB撮影中であることを知らせます。
- マニュアル露出のAEB撮影では、シャッター速度が変化します。



AEB撮影の解除

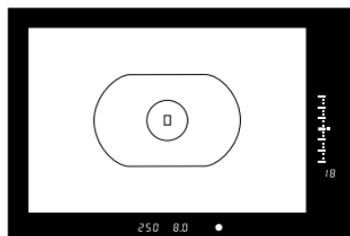
- 手順1と2の操作でAEBステップ量を **0.0** にします。
- レンズの交換、フィルムの巻き戻し、フィルムの交換、バルブ撮影の設定、ストロボの充電完了、〈CLEAR〉ボタン押し、〈  〉スイッチ〈OFF〉でも解除されます。

- 連続撮影中のファインダー内情報は表示されません。
- AEB撮影の設定をしたあと、71ページの「自分の好みに露出を補正する」を併用すると、露出補正量分シフトしたAEB撮影を行うことができます。
- ストロボ撮影およびバルブ撮影とAEB撮影との併用はできません。
- カスタム機能C.Fn-12でミラーアップを設定した状態でAEB撮影する場合、巻き上げモードを連続撮影にしても1枚撮影となります。

- C.Fn** AEBステップ量を1/2段に変更することができます。(C.Fn-6-2→106)
- C.Fn** 撮影順をマイナス補正、標準露出、プラス補正に変更することができます。(C.Fn-9-2, 3→108)
- C.Fn** AEB撮影を、レンズの交換、フィルムの巻き戻し、フィルムの交換、**<⊕>**スイッチ**<OFF>**で解除しないようにすることができます。(C.Fn-9-1, 3→108)
- C.Fn** マニュアル露出時にシャッター速度固定で絞りを変化させることができます。(C.Fn-5-1→105)

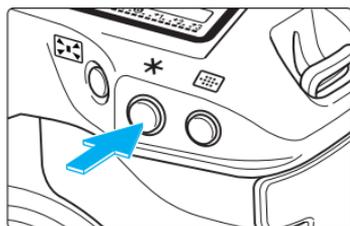
露出を固定して撮る／AEロック撮影

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。



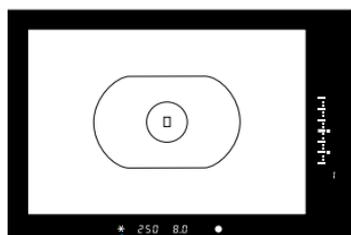
1 露出を合わせたい被写体にピントを合わせる

- 表示パネルおよびファインダーに露出値が表示されます。



2 **<*>** ボタンを押す (⓪6)

- ファインダー内に*が表示され、露出値が固定(AEロック)されます。
- **<*>** ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。
- ファインダー内に*が表示されてから(⓪6)が切れるか、**<AF>** ボタン、**<⊕>** ボタン、**<MODE>** ボタンのいずれかを押しすと、AEロックは解除されます。



AEロック表示

3 構図を決めて撮影する

- AEロックした露出値と新しい露出値がリアルタイムで表示されます。



AEロック露出レベル

リアルタイム露出レベル

 1点に的確にAEロックを行う場合は部分測光またはスポット測光の使用をおすすめします。(→55)

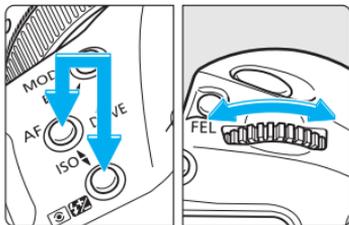
 ONE SHOT AFと評価測光の組み合わせの場合、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時に自動的にAEロックされます。

C.Fn <★>ボタンの代わりにシャッターボタンを半押ししてAEロックを行い、<★>ボタンでピントを合わせることもできます。(C.Fn-4-1→104)

フィルム感度の手動設定

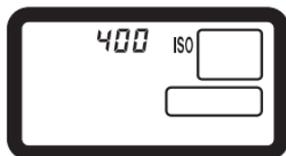
DXコードが付いていないフィルムを使用する場合、またはフィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合は、フィルムを装填してから次のようにします。

- 設定できるフィルム感度の範囲はISO 6～6400です。



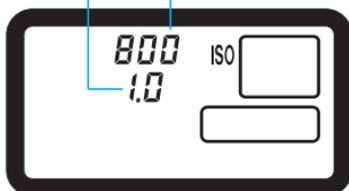
1 <AF> ボタンと<☉> ボタンを同時に押す

- ISO とそのとき設定されているフィルム感度が表示されます。



ISO感度の差
(段数)

手動設定ISO感度



2 そのまま<☂>を回す

- 表示パネルに希望するフィルム感度が表示されるまで<☂>を回します。
- DXコード付きフィルムではISO感度の差(段数)も表示されます。

自動設定されたISO400をISO 800に手動設定したときの表示例。フィルム巻き戻し開始からフィルムを取り出すまでの間も表示されます。

3 ボタンから指を離す

- フィルム感度が設定されます。

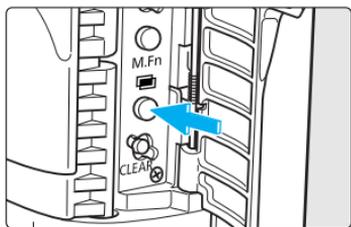


- フィルム感度を手動で設定してもDXコードが付いているフィルムに入れ換えると手動で設定した数値は解除されます。

C.Fn DXコードがついているフィルムに入れ換えても、手動設定したISO感度を解除しないようにすることができます。(C.Fn-3→103)

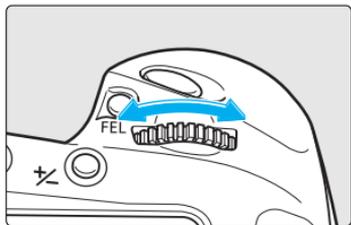
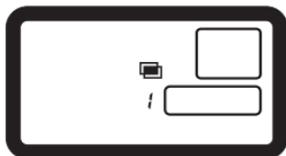
多重露出撮影

撮影後フィルムを次のコマに送らず、同じコマで複数回撮影することを多重露出撮影といいます。1度の操作で9回までの多重露出撮影回数を設定することができます。多重露出撮影はどの撮影モードとも併用することができます。



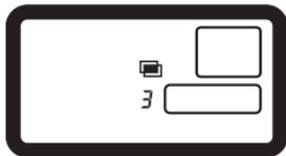
1 側面カバーを開けて<側面>ボタンを押す

- 表示パネルに<側面>が表示され(06)、同時にフィルムカウンターが1に変わります。



2 <シャッター>を回して希望する多重露出回数を設定する

- シャッターボタンを半押しするか(06)が切れると撮影準備状態になります。



3回の多重露出の場合

3 撮影モードを選択して撮影する。

- 設定した多重露出撮影回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ多重露出撮影は自動的に解除されます。

 多重露出撮影をフィルムの最初と最後の数コマで行うと、フィルムの巻きぐせにより被写体の重なり具合が微妙にずれることがあります。

-  ● 多重露出撮影中は  が点滅します。
- 多重露出撮影を撮影開始前に解除するには、多重露出回数を1に設定します。
 - 多重露出撮影の途中で多重露出撮影を解除するときは、その時点で手順「1」、「2」の操作で多重露出回数の表示を空白にします。

 多重露出撮影は一つのコマに何度も撮影するので露出値をあらかじめマイナス側に補正しておく必要があります。71ページ「自分の好みに露出を補正する」を参照してください。

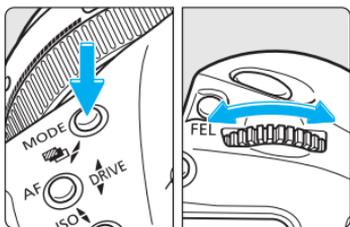
露出補正量のおおよその目安

多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安	-1.0	-1.5	-2.0

この補正量はいくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わります。あらかじめ撮影データを求めておいてください。

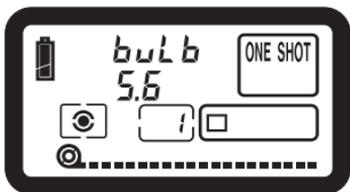
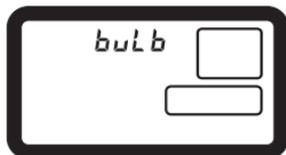
バルブ撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。



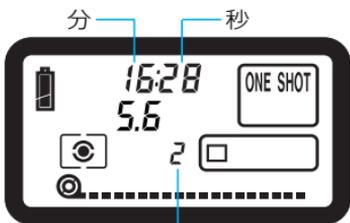
1 表示パネルに *bulb* を表示する

- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈〉を回して *bulb* を表示し、〈MODE〉ボタンから指を離します。



2 絞り数値を設定する

- 〈〉スイッチを〈ON〉にしておく、〈〉〈〉のどちらでも設定できます。



3 撮影する

- 表示パネルに露光経過時間が表示されます。
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。



バルブ撮影は、ほとんど電池消費のない省電設計です。



シャッターボタンを押し続ける機能がついているリモートスイッチRS-80N3 (別売) やタイマーリモートコントローラーTC-80N3 (別売) をカメラのリモコン／通信端子に接続して使用すれば、シャッターボタンを押し続ける必要はありません。

一枚撮影・連続撮影の切り換え

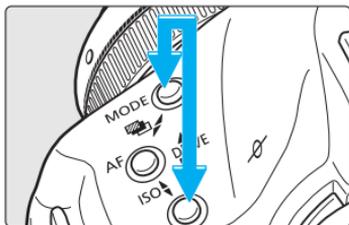
フィルムの巻き上げには一枚撮影と連続撮影の2種類があります。

一枚撮影 (□)

撮影したあとカメラが自動的にフィルムを1コマ巻き上げます。

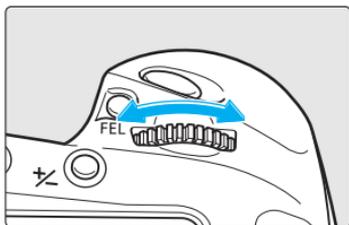
連続撮影 (📷)

シャッターボタンを押し続けている間、連続撮影します。



1 <MODE>ボタンと<📷>を同時に押す

- ➡ 巻き上げモードが表示されます。



2 そのまま<📷>を回す

- 希望する巻き上げモードを選択してボタンから指を離します。



- 連続撮影時の撮影コマ数はシャッター速度を1/250秒以上に設定したときの数値です。
- 撮影後シャッターボタンを半押し位置まで戻すと、AEロックのまま次の撮影を行うことができます (ONE SHOT AFと評価測光の組み合わせの場合のみ)。

□、、、、が点滅するときは

低温下の撮影で電池の容量が急激に低下したり、フィルム巻き上げが重くなった場合には自動的に巻き上げ速度を遅くして、巻き上げ速さよりも巻き上げる力を優先する機能が組み込まれています。この機能をフィルム巻き上げ自動変速機能といいます。この機能が働くと表示パネルのフィルム巻き上げ表示(□、、、、)のいずれかが点滅します。

この機能の解除は、〈MODE〉ボタンと〈〉ボタンの同時押しか、フィルムの交換や電池の交換によって行われます。この機能が作動したときは電池容量の確認(→24)を行い、その結果の指示に従ってください。

- フィルムの巻き上げや巻き戻しが途中で停止すると表示パネルにが点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは<〉ボタンを押せば継続されます。
- 寒冷地では電池をポケットなどに入れて暖めると使えるようになることもあります。

カメラの状態による最高連続撮影コマ数

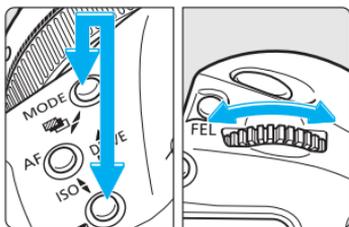
約(コマ/秒)

組み合わせ状態	電源	巻き上げモード	ONE SHOT AF / マニュアルフォーカス	AI SERVO AF
EOS-1V単体	リチウム電池2CR5×1個		3.5	3
EOS-1V+BP-E1	単3形アルカリ乾電池×4本			
EOS-1V+PB-E2 (EOS-1V HS)	ニッケル水素パック NP-E2		10	9
			7	7
			3	3
	単3形アルカリ乾電池 ×8本		6	5
			3	3
EOS-1V +パワードライブ プースターE1	単3形アルカリ乾電池 ×8本		6	5
			3	3

 連続撮影中のファインダー内情報は表示されません。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーにはシャッターボタンが押されてから約10秒後に撮影する10秒タイマーと、約2秒後に撮影する2秒タイマーの2種類があります。セルフタイマーを利用しての撮影には三脚を使用します。



1 セルフタイマーを選択する

- 〈MODE〉ボタンと〈〉ボタンを押しながらくまりを回して、希望するセルフタイマーを選択します。

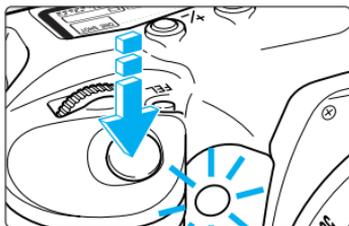


 10 :
10秒タイマー

 2 :
2秒タイマー

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてシャッターボタンを半押しし、合焦マークの点灯と露出表示を確認します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプが点滅を始め、セルフタイマーが作動中であることを知らせます。撮影2秒前になると点滅が速くなります。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈〉スイッチを〈OFF〉にします。



自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック(→49)して撮影します。



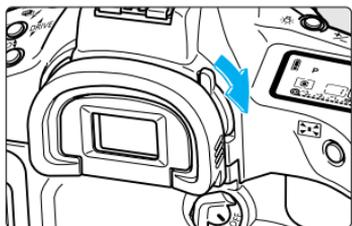
2秒タイマーは接写や複写撮影時のカメラブレ(シャッターボタンを押したときにカメラがわずかに揺れること)を防ぐときなどに有効です。



レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

アイピースシャッターの使い方

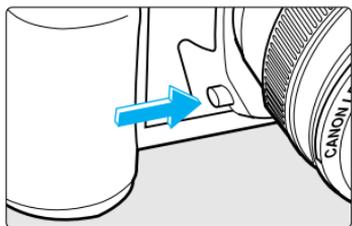
ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すとファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのようなときは接眼部に内蔵されたアイピースシャッターを使います。



アイピースシャッターレバーを矢印の方向に操作するとアイピースシャッターを閉じることができます。

逆方向に操作するとアイピースシャッターが開きます。

被写界深度の確認



ピントを合わせた被写体を中心にその前後にもピントの合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といいます。絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。

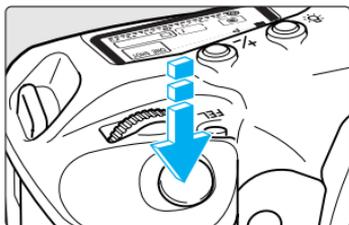


- 絞り込みボタンを押すとAEロック状態になります。
- AF作動中、絞り込みボタンは機能しません。

ミラーアップ撮影

カスタム機能C.Fn-12(→110)を利用して、ミラーアップと露光を別々に行うミラーアップ撮影を行うことができます。ミラーショックが気になる接写や超望遠レンズを使用するときにご活用ください。カスタム機能の設定は100ページ「カスタム機能の設定」を参照してください。ミラーアップ撮影を設定すると、カメラの作動は以下のようになります。

- ミラーアップ撮影にはリモートスイッチRS-80N3(別売)の併用をおすすめします。



1 シャッターボタンを全押しする

- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。

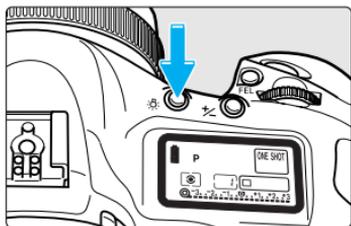
2 再度シャッターボタンを全押しする

- 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでのミラーアップ撮影では、ミラーアップ安定後速やかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するとき、セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが実際は撮影されていませんのでご注意ください。

- ミラーアップ撮影は、巻き上げモードの設定(1枚撮影・連続撮影)にかかわらず1枚撮影になります。
- セルフタイマーとミラーアップを併用すると、最初のシャッターボタン全押しでミラーが上がり10秒セルフタイマーのときは10秒後に、2秒セルフタイマーのときは2秒後に撮影されます。

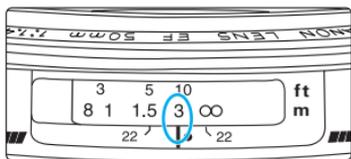
表示パネルの照明



表示パネルには照明機能が付いています。〈☼〉ボタンを押すたびに照明は点いたり(☼)消えたりします。暗い場所での撮影で表示パネルが見にくいときにご利用ください。表示パネルの照明は撮影終了後、約2秒で自動的に消えます。バルブ撮影では、撮影開始と同時に表示パネルの照明は消えます。

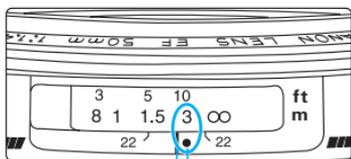
表示パネルが照明されている間に各種の操作ボタンを操作すると照明時間は延長されます。

モノクロ赤外フィルムを使った撮影



1 ピントを合わせ、レンズのフォーカスモードスイッチをMF(またはM)にする

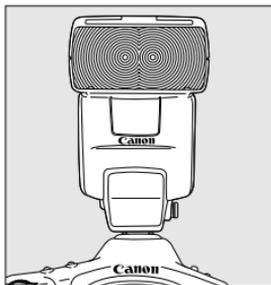
● 仮に3mでピントが合ったとします。



2 赤外指標でピントを補正して撮影する

● レンズ距離指標の距離を、赤外指標に合わせて補正します。被写体までの距離が3mの場合、赤外指標に3mを合わせて撮影します。

- 距離目盛と赤外指標の付いたレンズを使ってください。なお、赤外指標の付いていないLタイプレンズは、ピント位置修正の必要がありません。
- 赤外指標を中心に、その前後も撮影しておくことをおすすめします。
- フィルムの使用説明書もあわせてお読みください。
- 赤フィルターを併用するとより効果的です。
- カラー赤外フィルムはピント位置修正の必要がありません。



このカメラでは、EOS専用のEX/EZシリーズスピードライトを使用して、通常のAE撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影を行うことができます。特に、EXシリーズスピードライトと組み合わせると、通常のE-TTL自動調光はもちろん、高度なE-TTLワイヤレス多灯撮影もオートで行うことができます。

ここでは、550EXを組み合わせた時の簡単な撮影と、EOS-1Vで操作できる機能を中心に説明します。550EXの詳しい操作については、550EXの使用説明書を参照してください。

6

ストロボ撮影



あらかじめ $\langle \text{閃} \rangle$ スイッチを $\langle \text{ON} \rangle$ に設定してください。また、必要に応じ、 $\langle \text{閃} \rangle$ スイッチを $\langle \text{ON} \rangle$ に設定してください。

EOS専用スピードライト550EXを利用した撮影

キヤノンスピードライト550EXを取り付けると、通常のAE撮影と同じ操作感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。

●E-TTL自動調光

E-TTL自動調光(プリ発光・記憶式評価調光)により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。暗いところでは、カメラを絞り優先AEにすると自動スローシンクロになり、「主被写体も背景も適正露出の、雰囲気の良い自然な写真」がオートで撮影できます。



●ハイスピードシンクロ (FP発光)

30秒から1/8000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ (FP発光) 撮影ができます。

●FE (Flash Exposure) ロック

被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

●ストロボ調光補正

通常のAE露出補正と同じ感覚で、ストロボ光のみの調光補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

●FEB (Flash Exposure Bracketing) 撮影

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

●ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影

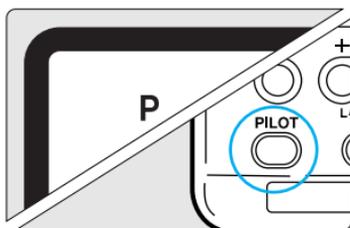
カメラに直接取り付けたとときと同じ感覚で、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影ができます。接続コードが不要であるため、自由に高度なライティング設定が可能です。



- E-TTLのEは、英語のEvaluative (評価) の頭文字をとったものです。
- AF撮影のストロボ露出は、常に撮影時の絞り数値 (自動あるいは手動で設定された絞り数値) を基準に、AFフレーム連動・主被写体重視のE-TTL自動調光で制御されます。
- ピントが合わせにくい状況では、550EXに内蔵されたエリアAF対応AF補助光が、被写体に向けて自動投光されます。

全自動ストロボ撮影

ここでは、〈P〉プログラムAEと組み合わせた全自動E-TTLストロボ撮影を説明します。550EXの操作については、550EXの使用説明書を参照してください。



- 1 カメラの撮影モードをPにする
- 2 550EXのパイロットランプの点灯を確認する
- 3 被写体にピントを合わせる
- 4 撮影する
 - ファインダー内の⚡の点灯と、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。



撮影モード別・ストロボ撮影

Tv、Av、Mの撮影モードと組み合わせたときも、ストロボを使用しない通常撮影と同じ操作でE-TTL自動調光撮影を行うことができます。

- (1) シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値 (調光絞り値) の設定
Tv (シャッター優先AE)	手動 (30秒～1/250秒)	自動
Av (絞り優先AE)	自動 (30秒～1/250秒)	手動
M (マニュアル露出)	手動 (30秒～1/250秒)	手動

- (2) シャッターボタンを全押しすると、(1)で設定された絞り数値を基準にした「プリ発光・記憶式評価調光」により、E-TTLストロボ撮影が行われます。
- (3) 背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。

ハイスピードシンクロ(FP発光)撮影

550EXをハイスピードシンクロモード(🔌)にすると、1/250秒よりも速いシャッター速度が設定されても、自動的に全てのシャッター速度に同調したハイスピードシンクロ(FP発光)撮影が可能になります。ハイスピードシンクロ状態になるとカメラのファインダー内に🔌Hが表示され、ハイスピードシンクロであることを示します。

ハイスピードシンクロ撮影は次のような状況のポートレート撮影などで効果を発揮します。

- (1)日中シンクロによるポートレート撮影で絞りを開いて(絞り数値を小さくして)背景をぼかす。
- (2)キャッチライトを入れる。
- (3)シャドー部に補助光を与える。



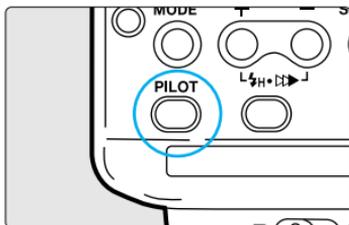
通常発光による作例



FP発光による作例

FEロック撮影

FE (Flash Exposure) ロック撮影は被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

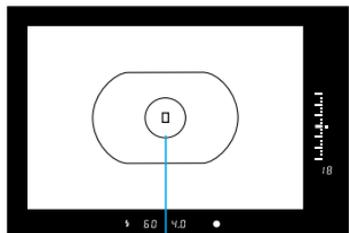


1 550EXのパイロットランプの点灯を確認する

- 発光モードは、通常発光、ハイスピードシンクロのどちらでもかまいません。それぞれの発光モードに対応したFEロックを行うことができます。

2 ピントを合わせる

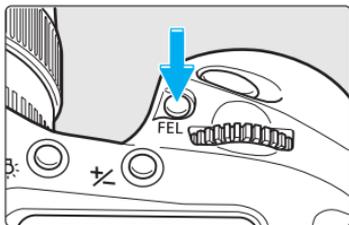
- 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。

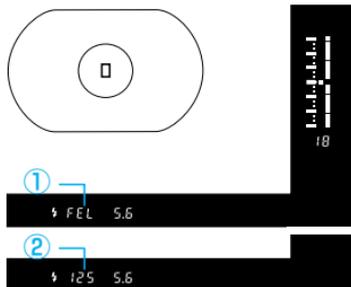


中央部スポット測光範囲

3 ファインダーの中央部スポット測光範囲を被写体に合わせて〈FEL〉ボタンを押す (16)

- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- FEロックされたAFフレームが一瞬赤く光ります。





- ファインダー内下部の表示が0.5秒間、①のようになり、そのあと②の表示になります。



4 撮影する

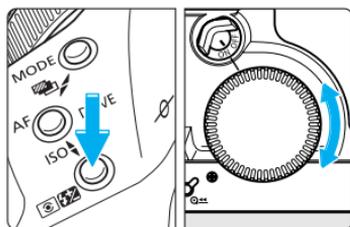
- 構図を決めて撮影します。

⚠ 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは⚡が点減します。被写体に近づいて手順「3」「4」の操作をします。

C.Fn 任意選択したAFフレームでFEロックすることができます。(C.Fn-13-1, 3→110)

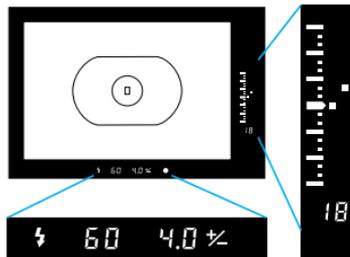
ストロボの調光補正

専用スピードライトの自動調光レベルをカメラで補正することができます。設定できる補正量は1/3段ステップで±3段の範囲です。



1 <Fn> ボタンを押しながら <Q> で希望する補正量を設定する

- 表示の+側はプラス補正を示し、-側はマイナス補正を示します。左の図はプラス2/3段の補正を表しています。



2 撮影する

- シャッターボタンを半押しするとファインダー内右の表示で設定した調光補正量を確認することができます。
- <Fn> ボタンを押すと設定した調光補正量を表示パネルで確認することができます。
- 調光補正を解除するときは補正量を標準露出指標 (0) の位置に戻します。



- 設定した調光補正量は<Fn>スイッチを<OFF>にしても記憶されています。
- キヤノンスピードライトの中には、ストロボ側でも調光補正を設定できるものがあります。これらのスピードライトとカメラの両方で調光補正を行った場合は、スピードライト側の補正が優先し、カメラによる補正は機能しません。

C.Fn 調光補正量を1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-6-2→106)

FEB撮影

550EXでは背景の露出を変えずに1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的に発光量を変えながら3コマのストロボ撮影を行うことができます。これをFEB (Flash Exposure Bracketing) 撮影といいます。



標準露出



マイナス補正 (-2/3)



プラス補正 (+2/3)

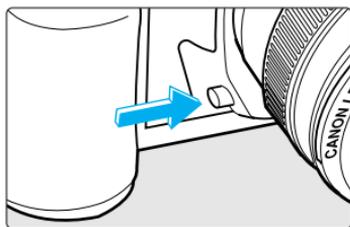
- FEBの設定は550EXで行います。詳細は550EXの使用説明書を参照してください。
- 550EXで設定した補正量はカメラのファインダー内の調光レベル表示で確認することができます。
- FEB撮影は550EXの充電を確認してから行ってください。〈□〉(一枚撮影)をおすすめします。

C.Fn 補正量を1/2段ステップにすることができます。(C.Fn-6-2→106)

モデリング発光

ストロボ撮影による被写体の影の出方や、多灯発光によるライティングのバランスを確認することができます。

1 ストロボ撮影のためのカメラとストロボの設定を確認する



2 カメラの絞り込みボタンを押す
→ 550EXが70Hzで1秒間発光します。

ワイヤレス多灯撮影

550EXは、次の3つの機能を備えています。

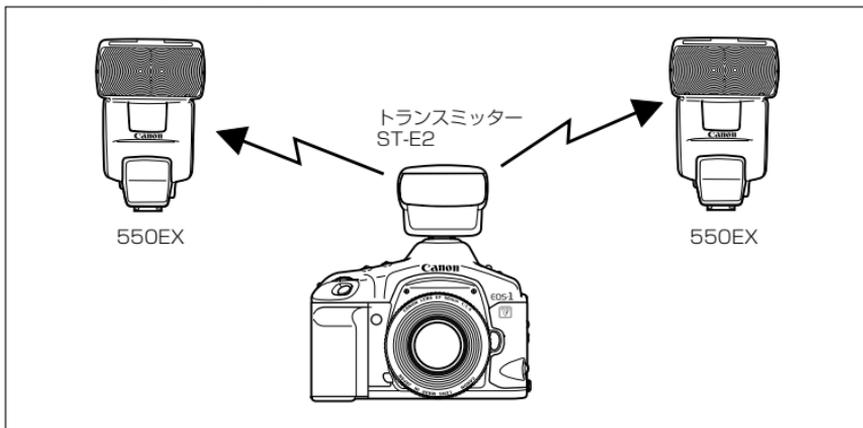
- (1) 通常のE-TTL自動調光ストロボ
- (2) スレーブストロボ
- (3) スレーブ設定された550EXをワイヤレス制御するマスター機能

これらの機能を活用すると、カメラ・ストロボ間の接続コードが不要の「ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影」を簡単に行うことができます。

このシステムは、3灯までの組み合わせ、メイン・サブに区分した光量比の設定など、高度で自由なストロボライティングを実現したものです。

●詳細は、550EX、ST-E2の使用説明書を参照してください。

ワイヤレス多灯撮影の例



その他のEOS専用スピードライトを利用した撮影

EXシリーズ以外のEOS専用スピードライトを取り付けると、通常のAE撮影と同じ操作感覚で、TTL自動調光撮影を簡単に行うことができます。

ストロボ光の露出制御は、AFフレーム連動のリアルタイム・フィルム面反射測光により行われます。

(1) シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値 (調光絞り値) の設定
P (プログラムAE)	自動 (1/60秒~1/250秒)	自動
Tv (シャッター優先AE)	手動 (30秒~1/250秒)	自動
Av (絞り優先AE)	自動 (30秒~1/250秒)	手動
M (マニュアル)	手動 (30秒~1/250秒)	手動

(2) シャッターボタンを全押しすると、(1) で設定された絞り数値を基準にしたTTL自動調光撮影ができます。

(3) 背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。



- カメラ操作による調光補正ができます。
- 接続コード式の多灯アクセサリーを併用すると、TTL自動調光による多灯撮影ができます。
- ストロボ調光自動低減コントロールについて
トップライト気味の逆光状態にある被写体を専用ストロボで撮影したとき、ストロボ光による露出が不自然にならないようにするため、ストロボの発光量を自動的に減らします。この機能をストロボ調光自動低減コントロールといいます。

C.Fn ストロボ調光自動低減コントロールを解除することができます。
(C.Fn-14→111)

汎用ストロボを利用した撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下のシャッター速度で、スタジオ用の大型ストロボは1/125秒以下のシャッター速度で同調撮影することができます。なお、お使いになるストロボがカメラに正しく同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。

シンクロ端子について

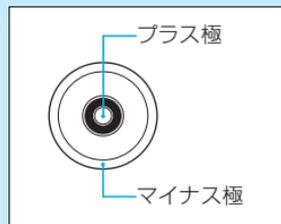
シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。シンクロ接点はコードの抜け落ちを防止するロックねじ付きです。シンクロ端子はX接点のみで、1/250秒以下のシャッター速度に同調します。

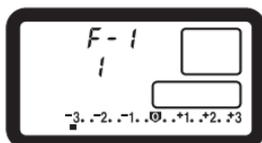


- アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。
- このカメラにはキヤノンの専用スピードライトをお使いになることをおすすめします。



- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持っています）およびストロボ用付属品をお使いになると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- スタジオ用大型ストロボの機種の中には、シンクロコードの極性がこのカメラの極性と逆のものがあります。この場合そのストロボは発光しません。ストロボメーカーに相談されるか、市販の極性変換コードを使用して極性を合わせてください。このカメラの極性は右図のようになっています。





このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

本文中では **C.Fn** マークをつけて簡単なガイドをしましたが、ここではカスタム機能とその活用方法について詳しく説明しています。

7

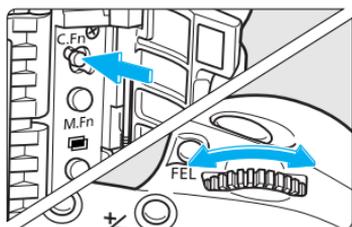
C.Fn-0 …102	C.Fn-10 …108
C.Fn-1 …102	C.Fn-11 …109
C.Fn-2 …103	C.Fn-12 …110
C.Fn-3 …103	C.Fn-13 …110
C.Fn-4 …104	C.Fn-14 …111
C.Fn-5 …105	C.Fn-15 …111
C.Fn-6 …106	C.Fn-16 …112
C.Fn-7 …106	C.Fn-17 …112
C.Fn-8 …107	C.Fn-18 …113
C.Fn-9 …108	C.Fn-19 …114

カスタム機能



あらかじめ  スイッチを **<ON>** に設定してください。また、必要に応じ、 スイッチを **<ON>** に設定してください。

カスタム機能の設定



1 側面カバーを開けてくC.Fn>ボタンを押す

→ 表示パネルにカスタム機能番号が表示されます。

2 <Fn>を回し希望するカスタム機能番号を選択する

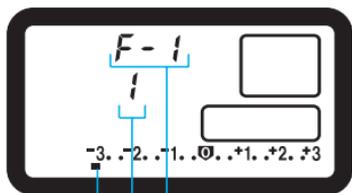
3 <C.Fn>ボタンを押して、選択したカスタム機能の変更内容に対応した番号を表示する

→ <C.Fn>ボタンを押すたびに数字が変わります。

● カスタム機能 **F-0** の内容を変更するには、<C.Fn>ボタンを2秒以上押しします。(→131)。

4 シャッターボタンを半押しする

→ 表示パネルは通常の表示に戻り、カスタム機能の設定が終了します。



カスタム機能番号

カスタム機能設定番号

■ によるカスタム機能設定表示



-3. -2. -1. 0. +1. +2. +3

(C.Fn-1) (C.Fn-5) (C.Fn-10) (C.Fn-14)

カスタム機能、No.1、No.5、No.10、No.14をセットした例

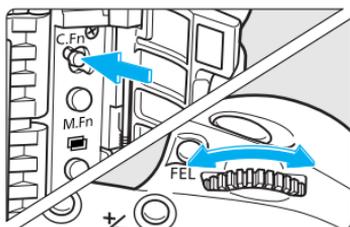
● 設定したカスタム機能の確認

カスタム機能を設定したあとにくC.Fn>ボタンを押すと、表示パネルの露出レベル表示部に ■ が表示されます。

-3の下の位置がカスタム機能C.Fn-1の設定を示し、左から順に1つつつC.Fn-19までの設定を示します。

● C.FnはCustom Function(カスタムファンクション)の略でカスタム機能のことです。

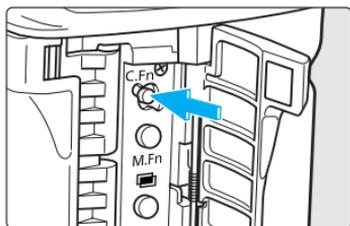
カスタム機能の解除



1 側面カバーを開けて〈C.Fn〉ボタンを押す

→ 表示パネルにカスタム機能番号が表示されます。

2 〈〉を回し設定を解除するカスタム機能番号を選択する



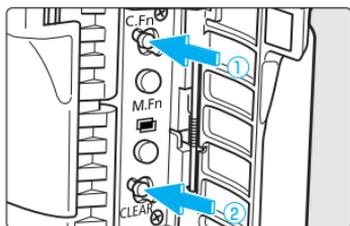
3 設定番号を 0 にする

● 〈C.Fn〉ボタンを繰り返し押します。

4 シャッターボタンを半押しする

● 表示パネルが通常の表示に戻り、カスタム機能の解除が終了します。

カスタム機能の一括解除



側面カバー内の〈C.Fn〉ボタンを押してから、〈CLEAR〉ボタンを押す

● C.Fn-0を除く全てのカスタム機能の設定を解除(0に設定)することができます。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-0 フォーカシングスクリーンの特性にあわせる

カメラ内蔵の露出計機能をフォーカシングスクリーンの特性にあわせませす。使用する交換フォーカシングスクリーンにあわせて必ず設定してください。(→131)

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-0	フォーカシングスクリーン特性	0	 Ec-N, Ec-R
		1	 Ec-A, B, C, CII, CIII, D, H, I, L

C.Fn-0-0：ニューレーザーマツトスクリーン使用時に設定します。

C.Fn-0-1：レーザーマツトスクリーン使用時に設定します。

EOS-1Vの標準フォーカシングスクリーンは、Ec-CIIIですので、購入時の状態はC.Fn-0-1に設定されています。

C.Fn-1 フィルム自動巻き戻しの設定

フィルムの自動巻き戻しをしないようにしたり、巻き戻しを静かにすることができます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容	
C.Fn-1	フィルム自動巻き戻し	0	 する	高速REW
		1	 しない	
		2	 する	静粛REW
		3	 しない	

C.Fn-1-1：自動巻き戻しをしたくないときに設定します。突然のフィルム巻き戻し音の発生がその場の雰囲気、好ましくないときに有効です。巻き戻しは<Q/OK>ボタンを押して行います。(→32)

C.Fn-1-2：自動巻き戻しを静かに行いたいときに設定します。

C.Fn-2 フィルム巻き戻し完了時のフィルム先端状態

巻き戻し完了時に、フィルムリーダー部を残しておくことができます。

C.Fn	対象機能	No.		設定内容
C.Fn-2	巻き戻し完了時のフィルム先端	0		残さない(パトローネ内巻き込み)
		1		残す

C.Fn-2-1：自家現像処理を行う場合に有効です。



C.Fn-2-1を設定した場合、背ぶたを開けてシャッターを切ると、シャッター速度は常に1/8000秒になります。

C.Fn-3 DXコード・フィルム感度の自動セット

フィルム感度の自動設定を止めさせることができます。

C.Fn	対象機能	No.		設定内容
C.Fn-3	DXコード・フィルム感度の自動セット	0	ISO DX	する
		1	ISO M	しない

C.Fn-3-1：フィルム感度を手動で設定します。(→77) 自分で確認した実効感度を設定するときなどに有効です。フィルム装填のたびに手動で感度設定する煩わしさが解消できます。

C.Fn-4 AF作動/AEロック

ピント合わせと露出決定を別々に行ったり、AI SERVO AFを一瞬止めたりすることが出来ます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-4	AF作動/AEロック ●：シャッターボタン ●：AEロックボタン	0	●AF ●AEL シャッターボタン/AEロックボタン
		1	●AEL ●AEAF AEロックボタン/シャッターボタン
		2	●AF ●AFL シャッターボタン/不可(AEロック)
		3	●AE ●AEAF AEロックボタン/不可(→リアルタイムAE)

C.Fn-4-1：ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✳〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック(露出決定)することができます。(→75)

C.Fn-4-2：AI SERVO AF中にカメラと主被写体の間に障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう〈✳〉ボタンでAF作動を一瞬停止させることができます。露出は撮影の瞬間に決まります。(→40)

C.Fn-4-3：移動/停止を繰り返す動物撮影などに有効です。AI SERVO AFを設定しておく、〈✳〉ボタンでAI SERVO AFの作動/停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適状態にしてシャッターチャンスを待つことができます。



C.Fn-4とC.Fn-19-0, 1, 2(→114)は、共にAF作動/停止とAEロックの機能を持っていますが、この2つを併用して二重操作を行った場合、あとから行う操作で有効となるのは、AFスタート後のAFストップ操作だけです。他の二重操作では、あとから行った操作は有効とはなりません。

C.Fn-5 マニュアル露出時のシャッター速度・絞り数値の設定

マニュアル露出の絞り数値を $\langle \text{絞り} \rangle$ で設定したり、カメラからレンズを外した状態で絞り数値を設定することができます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-5	マニュアル露出時の メイン電子ダイヤル/ サブ電子ダイヤル	0	 Tv  Av シャッター速度セット/ 絞り数値セット
		1	 Av  Tv 絞り数値セット/ シャッター速度セット
		2	 Tv  Av シャッター速度セット/ 絞り数値セット
		3	 Av  Tv 絞り数値セット/ シャッター速度セット

 はレンズなし状態で絞り数値設定ができるマークです。

- C.Fn-5-1 : シャッター速度を $\langle \text{シャッター速度} \rangle$ ダイヤル、絞り数値を $\langle \text{絞り} \rangle$ で設定します。シャッター速度は $\langle \text{シャッター速度} \rangle$ ボタンを押して $\langle \text{絞り} \rangle$ 、 $\langle \text{絞り} \rangle$ でも設定できます。大型ストロボ使用のスタジオ撮影など、絞り数値の変更を頻繁に行う場合に有効です。(→70) また、マニュアル露出でAEB撮影を行うと、シャッター速度固定で、絞り数値をAEBに連動して変化させることができます。
- C.Fn-5-2 : シャッター速度/絞り数値の設定はC.Fn-5-0と同じですが、レンズを外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。超望遠レンズをセットして複数台のEOS-1Vを交換して撮影する場合を想定、プロの助手さんのために用意しました。
- C.Fn-5-3 : シャッター速度/絞り数値の設定はC.Fn-5-1と同じですが、レンズを外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。



C.Fn-11-1, 2を併用したときは、 $\langle \text{シャッター速度} \rangle$ ボタンとダイヤルによるシャッター速度、絞り数値の設定が、 $\langle \text{絞り} \rangle$ ボタンとダイヤル操作に変わります。

C.Fn-6 露出設定ステップ

シャッター速度と絞り数値の設定ステップと露出補正 (AE、AEB、ストロボ露光) ステップを変えることができます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-6	シャッター速度・絞り数値の設定ステップと露出補正ステップ	0	1/3 STEP 設定1/3・露出補正1/3
		1	1 STEP 設定1・露出補正1/3
		2	1/2 STEP 設定1/2・露出補正1/2

C.Fn-6-1：シャッター速度と絞り数値の設定ステップを、従来から慣れ親しんだ1段ステップにすることができます。

C.Fn-6-2：露出の許容幅が比較的広いネガフィルムに適しています。

C.Fn-7 USMレンズの電子式手動フォーカス

ONE SHOT AF合焦後、下記レンズの不用意な電子式手動フォーカスでピントがズれることを防止することができます。

EF50/1.0L USM、EF85/1.2L USM、EF200/1.8L USM、EF300/2.8L USM、EF400/2.8L USM、EF400/2.8L II USM、EF500/4.5L USM、EF600/4L USM、EF1200/5.6L USM、EF28-80/2.8-4L USM

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-7	ONE SHOT AF作動後の電子式手動フォーカス	0	AF MF 可 (C.Fn-4-1, 3併用・合焦前も可)
		1	AF (M) 不可 (C.Fn-4-1, 3併用・合焦前は可)
		2	AF 不可 (C.Fn-4-1, 3併用・合焦前も不可)

C.Fn-7-1：ONE SHOT AF合焦後の電子式手動フォーカスを禁止します (合焦前は可能)。C.Fn-7-1、C.Fn-7-2とも、手動ピント合わせはレンズのフォーカスモードスイッチを**MF** (または**M**) にして行います。

C.Fn-7-2：AFモードでの電子式手動フォーカスをすべて禁止します。



C.Fn-4とC.Fn-7を併用したときの電子式手動フォーカスは以下ようになります。

カスタム機能 No.		C.Fn-4	
	選択番号	0、2	1、3
C.Fn-7	0	×/○	○/○
	1	×/×	○/×
	2	×/×	×/×

*合焦前／合焦後

○：可能

×：禁止

C.Fn-8 フィルムカウンター表示

フィルムカウンターを逆算表示にして残り枚数を確認できるようにしたり、ファインダー内のフィルムカウンターをEOS-1Nと同じにすることができます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-8	フィルムカウンター	0	順算
		1	逆算
		2	ファインダー内・F、9～0 (EOS-1N 同様)

C.Fn-8-1：フィルムの残り枚数を確認しながら撮影することができます。ファインダー内のフィルムカウンターも逆算表示になります。表示パネルのフィルムカウンター左上と、ファインダー内に◆が表示されます。

C.Fn-8-2：ファインダー内のフィルムカウンターがEOS-1Nと同じ表示になります。残り枚数10枚以上はF、9枚以下からカウントダウン表示になります。

C.Fn-9 AEB撮影順と解除の有無

標準→マイナス補正→プラス補正の撮影順を変えたり、レンズ交換、フィルム交換、メインスイッチOFFでのAEB解除を禁止します。

0：標準露出、-：マイナス補正、+：プラス補正

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-9	AEB撮影順序/ レンズ交換・フィルム 交換・メインスイッチ OFFで自動解除	0	 0 → - → + / する
		1	 0 → - → + / しない
		2	 - → 0 → + / する
		3	 - → 0 → + / しない

C.Fn-9-1：最初のコマを標準露出したAEBを何回も繰り返すときに有効です。

C.Fn-9-2：露光量の少ない順にAEB撮影することができます。

C.Fn-9-3：C.Fn-9-2のAEB撮影を何回も繰り返すときに有効です。

C.Fn-10 AFフレームの点灯

合焦時にAFフレームの点灯を止めたり、逆に明るい場所でもよく見えるようにすることができます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-10	AFフレームの 点灯表示	0	 する
		1	 しない
		2	 する (淡い表示なし)
		3	 明るくする

C.Fn-10-1：AFフレームが点灯しません。点灯がわずらわしい場合に設定します。

C.Fn-10-2：C.Fn-10-0の淡い点灯をさせたくないときに設定します。

C.Fn-10-3：C.Fn-10-0ではAFフレームが見えにくいというときに設定します。

C.Fn-11 AF フレームの選択方法

AFフレーム選択ボタンの機能を露出補正ボタン、FEロックボタンと入れ換えて、自分が操作しやすい場所にAFフレーム選択ボタンを配置することができます。また、で上下左右のAFフレーム選択を行うこともできます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-11	AFフレームの 選択方法	0	 ←  + 
			↑  + 
		1	 ←  + 
			↑  + 
		2	 ←  単独操作
			↑  + 
		3	 ←  + 
			↑  + 

C.Fn-11-1：ボタンとボタンが入れ換わります。ボタンを押して、左右方向の選択を、上下方向の選択を操作で行います。

C.Fn-11-2： 測光タイマー中に 単独操作で左右方向 (C.Fn-13-3設定時は外周AFフレーム) の選択ができます。上下方向の選択は ボタンを押しながら 操作で行います。上下左右方向とも両端に突き当たると行き止まりとなります。シャッターボタン半押し中、AI SERVO AF連続撮影中にも可能です。

- AF作動中に ボタンを押すと、瞬時にAFフレーム自動選択へ切り換えることができます。
- C.Fn-11-1と同じ操作でもAFフレーム (自動選択含む) を選択することができます。
- C.Fn-11-2とC.Fn-18-1、2 (→113) を併用したときの上下方向の選択は、 ボタンを押して 操作で行ってください。

C.Fn-11-3： ボタンと ボタンが入れ換わります。 ボタンを押して、左右方向の選択を、上下方向の選択を 操作で行います。

C.Fn-12 ミラーアップ撮影の設定

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-12	ミラーアップ撮影	0	 しない
		1	 する

C.Fn-12-1：接写や望遠撮影で、ミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影の方法については、85ページをご覧ください。

C.Fn-13 AFフレーム数の選択とスポット測光

AFフレームを11点または、9点に限定してAFフレームの選択機動性を向上させると同時に、AFフレーム連動のスポット測光を行うことができます。構図優先で、スポットライトを浴びた舞台撮影などに有効です。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-13	AFフレーム数の選択とスポット測光 (FEロック)	0	 45/中央固定
		1	 11/AFフレーム連動
		2	 11/中央固定
		3	 9/AFフレーム連動

C.Fn-13-1：AFフレームを11点に限定した、AFフレーム連動スポット測光ができます。(→42)

C.Fn-13-2：AFフレームを11点に限定、スポット測光は中央部スポット測光になります。(→42)

C.Fn-13-3：AFフレームを9点に限定した、AFフレーム連動スポット測光ができます。(→42)

- スポット測光モードを選択しないとAFフレーム連動スポット測光になりません。
- C.Fn-13-1、2の設定または解除を行うと、登録したAFフレーム(→46)が中央AFフレームとなります。



- スポット測光以外の測光モードも選択できます。
- C.Fn-13-1, 2, 3のAFフレーム自動選択は、常に45の測距点で行われます。

C.Fn-14 日中シンクロのストロボ調光自動低減コントロール

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-14	日中シンクロ・ ストロボ調光自動 低減コントロール	0 	する
		1 	しない

C.Fn-14-1：夕日など強い逆光下での人物撮影で、人物が露出アンダーになるのを防ぎます。

C.Fn-15 ストロボシンクロタイミング

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-15	シンクロタイミング	0 	先幕シンクロ
		1 	後幕シンクロ

C.Fn-15-1：低速シャッター速度設定時に光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。シンクロタイミング切り換え機能がないEXシリーズストロボで後幕シンクロができるようになります。切り換え機能内蔵のEXシリーズストロボでは、ストロボ側の設定が優先します。

C.Fn-16 セイフティシフトの設定

シャッター優先AEと絞り優先AEにセイフティシフトを設定することができます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-16	Tv-AE、Av-AE時のセイフティシフト	0	 しない
		1	 する

C.Fn-16-1：被写体の明るさが急に变化して、シャッター優先AE、絞り優先AEの設定値が不適切になっても、設定値を自動変更して適正露出にします。

C.Fn-17 AFフレームの領域拡大

任意選択したAFフレームの領域を拡大することができます。(→48)

C.Fn-13併用時も領域拡大します。

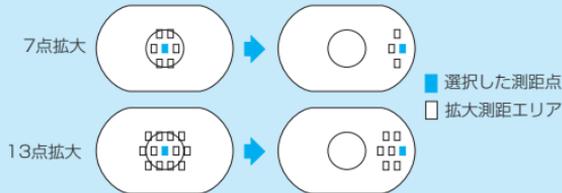
C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-17	AFフレームの測距領域拡大	0	 1 (標準)
		1	 1+ (隣接AFフレーム常時待機)
		2	 1+ (常時待機AFフレーム自動設定)

C.Fn-17-1：任意選択したAFフレームの範囲を上下左右1つずつ広げ、7点で被写体をとらえます。任意の1点では追従できないような不規則に変化する被写体を撮影するときに有効です。

C.Fn-17-2：使用レンズの焦点距離や、AFモード、動体予測AF時の被写体の速さなどに応じて、カメラが自動的にAFフレームの範囲を設定、7点あるいは13点で被写体をとらえます。被写体の動きが予測できないような場合に有効です。



AFフレームの領域拡大は、選択したAFフレームを中心に拡大されるため、外寄りのAFフレームを選択したときは、図のように拡大領域が小さくなります。



C.Fn-18 登録したAFフレームへの切り換え

登録したAFフレームへ、<AF-ON>ボタン単独押しで瞬時に切り換えることができます。(→46)

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-18	登録したAFフレームへの切り換え	0	<AF-ON>ボタン+<MENU>ボタン
		1	<AF-ON>ボタンで切り換え
		2	<AF-ON>ボタンを押している間だけ切り換え

C.Fn-18-1：<AF-ON>ボタンを押すと登録したAFフレームに切り換えます。

C.Fn-18-2：<AF-ON>ボタンを押している間だけ、登録したAFフレームに切り換えます。ボタンを離すと元のAFフレームへ戻ります。選択しているAFフレームと、登録したAFフレームを交互に切り換えながら撮影したいときに有効です。



C.Fn-4-1、3を組み合わせて設定すると、<AF-ON>ボタン単独押しで登録AFフレームの切り換えとAFスタートを同時に行うようにすることができます。(→104)

C.Fn-19 レンズのAFストップボタン機能を変更する

手ブレ補正機能付き超望遠レンズに装備されている、AFストップボタンの機能をAFスタートボタンやAEロックボタンに換えることができます。

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-19	レンズ・AFストップボタンの機能変更	0	AFL AFストップ
		1	AF AFスタート
		2	AEL 測光タイマー中AEロック
		3	 押している間、45点自動選択または中央AFフレーム選択
		4	AF MODE ONE SHOT AF ↔ AI SERVO AF
		5	IS 手ブレ補正機能作動

C.Fn-19-1：押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。

C.Fn-19-2：測光タイマー作動中に押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

C.Fn-19-3：AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけ45点AFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AI SERVO AF作動中に任意AFで追従できなくなったときに有効です。
AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央AFフレームが選択されます。

C.Fn-19-4：ONE SHOT AF設定時に押すと、押している間だけAI SERVO AFになり、AI SERVO AF設定時に押すと、押している間だけONE SHOT AFになります。移動・停止を繰り返す被写体で、ONE SHOT AF、AI SERVO AFを交互に切り換えたいときに有効です。

C.Fn-19-5：レンズの手ブレ補正機能スイッチをONにしておくと、押している間だけ手ブレ補正機能が作動します。

パーソナル機能について

パーソナル機能とは、カスタム機能よりもさらにきめこまかな設定変更を可能とする機能のことです。操作はEOSリンクソフトウェアES-E1（別売→134）を使い、EOS-1Vとコンピュータを接続して行います。
なお、P.Fn-0 カスタム機能のグループ登録 は、EOS-1V単体でも設定することができます。（→116）

パーソナル機能の項目

P.Fn-0	カスタム機能のグループ登録
P.Fn-1	撮影モードを限定する
P.Fn-2	測光モードを限定する
P.Fn-3	マニュアル露出撮影時の測光モードを指定する
P.Fn-4	シャッター速度の上限、下限値を設定する
P.Fn-5	絞り数値の上限、下限値を設定する
P.Fn-6	撮影モードと測光モードの登録・切り換え
P.Fn-7	連続撮影時、AEB撮影を繰り返し行う
P.Fn-8	AEB撮影を初めの2コマ分だけ行う
P.Fn-9	C.Fn-9-2, 3のAEB撮影順をプラス補正→標準→マイナス補正の順に行う
P.Fn-10	プログラムシフトのシフト量を保持する
P.Fn-11	多重露出撮影を解除しない
P.Fn-12	AI SERVO AF特性の被写体追従敏感度を変える
P.Fn-13	AI SERVO AF連続撮影を、巻き上げ速度優先で行う
P.Fn-14	レンズ駆動によるピント検出（サーチ駆動）を行わない
P.Fn-15	AF補助光の投光を禁止する
P.Fn-16	ピント固定・シャッターボタン全押し状態で、合焦したら自動撮影する
P.Fn-17	AFフレーム自動選択を選べないようにする
P.Fn-18	C.Fn-11-2設定時にAFフレーム自動選択を可能にする
P.Fn-19	パワードライブブースター装着時、各巻き上げモードの速度を設定する
P.Fn-20	連続撮影時の撮影枚数を制限する
P.Fn-21	撮影後、シャッターボタンOFFで静粛（低速）巻き上げ
P.Fn-22	フィルム未装填時のレリーズを禁止する
P.Fn-23	各種タイマー保持時間（  6、  16など）を変更する
P.Fn-24	バルブ撮影中、表示パネルの照明を消さない
P.Fn-25	クリアボタンON時の初期状態を変更する
P.Fn-26	レリーズタイムラグを最速化する
P.Fn-27	電子ダイヤルの設定方向（回転）を反転する
P.Fn-28	サブ電子ダイヤルによる露出補正を禁止する
P.Fn-29	撮影データの残り記憶可能本数が少なくなったことを知らせる
P.Fn-30	フィルムID写し込みの濃さを変更する

P.Fn-0 カスタム機能のグループ登録

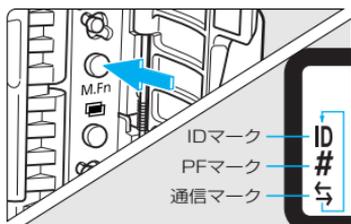
あらかじめ設定したカスタム機能を、スポーツ撮影用、スナップ撮影用、風景撮影用などに分けて、3グループまで登録することができます。

カスタム機能の登録

1 あらかじめカスタム機能を設定する(→100)

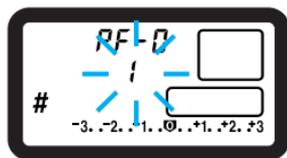
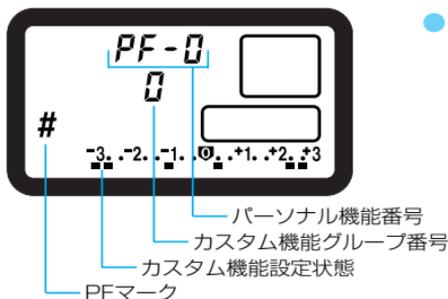
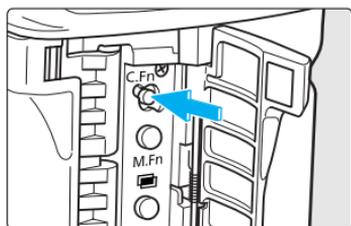
2 <M.Fn>ボタンを押してパーソナル機能モードにする

- ボタンを押すたびに表示パネル左端の表示が変わります。# (PFマーク) を表示してください。

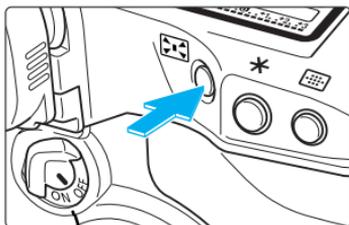


3 登録するカスタム機能グループ番号を選ぶ

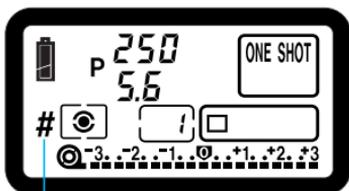
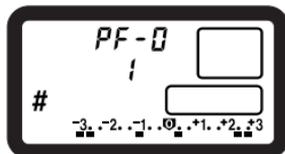
- <C.Fn>ボタンを押すたびにカスタム機能グループ番号が0、1、2、3、0の順に変わります。未登録状態の番号は点滅、登録済みの番号は点灯表示されます。
- 0には登録できません。1、2、3の中から登録番号を選んでください。



 PF-0-0には今現在のカスタム機能設定状態が表示されます。



- ## 4 登録する
- <星> ボタンを押すとC.Fn-1～19に設定したカスタム機能が1つのグループとして一括登録されます。



PFマーク

- ## 5 シャッターボタンを半押しする
- 表示パネルが通常の表示に戻り、登録が終了します。登録したカスタム機能使用中は、表示パネルに#マークが表示されます。
 - さらにPF-0-2、3に登録を行う場合は、手順1～5を繰り返します。一度登録した内容を変更する場合も同様の手順となります。

⚠ C.Fn-0の「フォーカシングスクリーンの特性にあわせる」は、グループ登録されません。

登録したカスタム機能の選択

「カスタム機能の登録」の手順2、3で使用するカスタム機能グループ番号を選び、シャッターボタンを軽く押しと選択完了です。

🔒 登録したカスタム機能の一括解除(→101)はできません。

🔒 P.FnはPersonal Function(パーソナルファンクション)の略でパーソナル機能のことです。

撮影データ記憶機能について

EOS-1Vには撮影データを自動記憶する機能が内蔵されています。記憶されたデータは、EOSリンクソフトウェアES-E1（別売）を用いることにより、コンピュータ上で閲覧・編集することができます。

初期状態で設定されている記憶内容

1. 任意設定番号
2. フィルムID番号
3. フィルム装填日時
4. DXフィルム感度
5. フレームNo.
6. 撮影モード
7. 開放絞り数値
8. シャッター速度
9. 絞り数値
10. 手動設定ISO感度
11. 露出補正量
12. ストロボ調光補正量
13. ストロボモード
14. 測光モード
15. 焦点距離
16. 巻き上げモード
17. AFモード

EOSリンクソフトウェアES-E1で追加できる項目

1. バルブ露光時間
2. 撮影年月日
3. 撮影時刻
4. カスタム機能設定状態
5. AFフレーム選択状態
6. 多重露出
7. ピントの合ったAFフレーム
8. 電池を入れた日時

キヤノンパワードライブブスターPB-E2を装着したEOS-1V HSは巻き上げモードが4種類になります。また、縦位置撮影でのカメラの操作性向上を図る縦位置専用シャッターボタン、AFフレーム選択ボタン<  >、メイン電子ダイヤル<  >、FEロックボタン/マルチスポット測光ボタン< FEL >、AEロックボタン< * >を設けています。

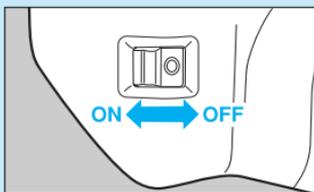
電源には単3形電池8本を使用します。ニッケル水素パックNP-E2 (別売) と専用のニッケル水素チャージャーNC-E2 (別売) も用意されています。また、ホールド性を向上するハンドストラップE1 (別売) の取り付けも可能です。

8

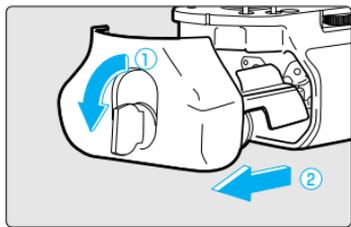
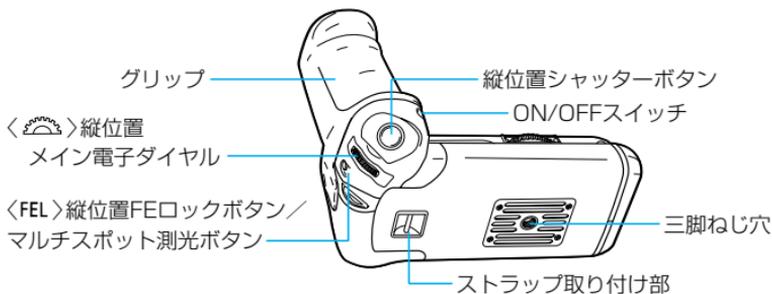
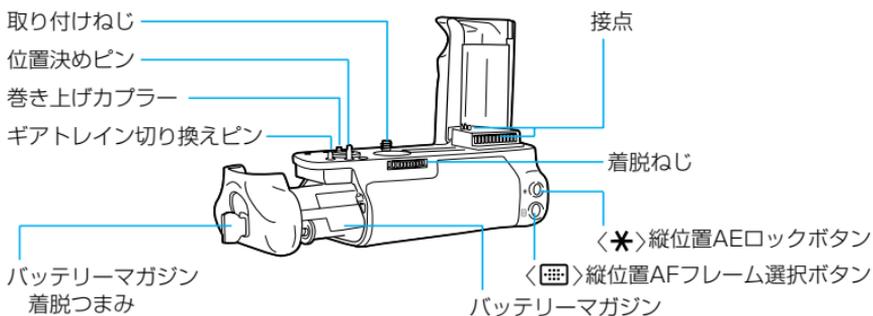
EOS-1V HSを お買い求めの方へ



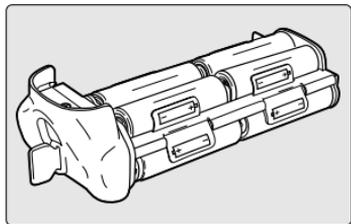
あらかじめ<  >スイッチを< ON >に設定してください。



PB-E2の縦位置用ボタンやダイヤルを使用するときは、PB-E2のON/OFFスイッチをONにしてください。



- ## 1 バッテリーマガジンを取り出す
- バッテリーマガジン着脱つまみを矢印の方向に回して取り出します。
 - 取り付けるときは逆の要領で行います。



- ## 2 電池を入れる
- バッテリーマガジンの図に従って＋の向きをまちがえないように電池を入れます。1本でも向きをまちがえると作動しません。
 - バッテリーチェックはカメラ単体で行う方法と同じです。(→24)

フィルムの巻き上げモード(→81)

●〈H^H〉超高速連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、最高約10コマ/秒で連続撮影します。ニッケル水素パックNP-E2(別売→133)との組み合わせで可能となります。

●〈H〉高速連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、最高約6コマ/秒(NP-E2使用時約7コマ/秒)で連続撮影します。

●〈L〉低速連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、最高約3コマ/秒で連続撮影します。

●〈〉1枚撮影

撮影したあとカメラが自動的にフィルムを1コマ巻き上げます。

AFモードと電池の違いによる連続撮影コマ数 約(コマ/秒)

巻き上げモード	ONE SHOT AF/マニュアル		AI SERVO AF	
	NP-E2	単3形電池	NP-E2	単3形電池
超高速連続撮影〈  H ^H 〉	10	—	9	—
高速連続撮影〈  H〉	7	6	7	5
低速連続撮影〈  L〉	3	3	3	3

- シャッター速度を1/250秒以上に設定した場合の連続撮影コマ数です。

EOS-1V HSの撮影可能フィルム本数

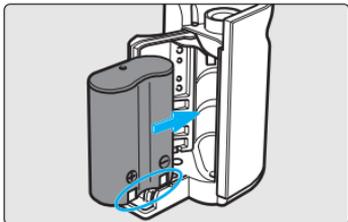
温度 \ 使用電源	単3形 アルカリ乾電池	単3形 リチウム電池	単3形 Ni-Cd電池	ニッケル水素パック (NP-E2)
常温(+20℃)	125(85)	180(120)	50(35)	100(70)
低温(-20℃)	7(5)	75(50)	36(24)	30(20)

- 撮影本数は新品電池、EF50mm F1.4 USMレンズ、24枚撮りフィルムを使用、当社の試験条件による本数です。()内は36枚撮りフィルムを使用時の撮影本数です。
- フィルムを入れずに空撮りしたり、オートフォーカスすると撮影本数が少なくなります。
- 単3形ニッケル水素電池も使用できます。

グリップGR-E2への交換

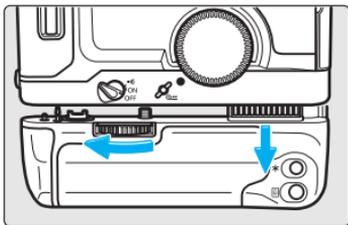
パワードライブブースターPB-E2を通常のEOS-1VのグリップGR-E2（別売）に取り換えて使用することができます。

電池はリチウム電池2CR5を1個使用します。



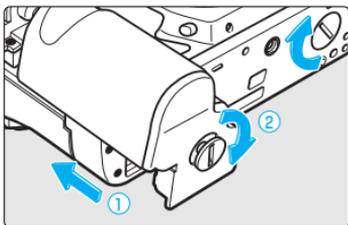
1 ノーマルグリップGR-E2に電池を入れる(→23)

- 図のように電池接点を右下にして電池を入れ、ふたを閉じます。



2 パワードライブブースターPB-E2を取り外す

- パワードライブブースターPB-E2の着脱ねじを矢印方向に回してゆるめ、下にずらして外します。
- EOS-1V底面の巻上げカプラー部(→12)にカバー(GR-E2に付属)をつけます。



3 グリップGR-E2を取り付ける

- グリップをカメラに取り付け、グリップ着脱ねじを回してしっかりと止めます。
- 外したパワードライブブースターPB-E2に接点保護カバー(GR-E2に付属)をかぶせ接点を保護します。

⚠ パワードライブブースターPB-E2をEOS-1、EOS-1Nでお使いになる際のご注意

- EOS-1には、単3形リチウム電池(FR6)およびニッケル水素バックNP-E2は使用できません。電池電圧が高いためEOS-1の電子回路を損傷する恐れがあります。
- EOS-1Nには、ニッケル水素バックNP-E2は使用できません。電池電圧が極端に低下した場合、電池性能が著しく劣化する恐れがあります。

カメラを快適に使っていただくために、この「資料」を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などをおこないます。

9

資 料

写真の基本用語解説

露出

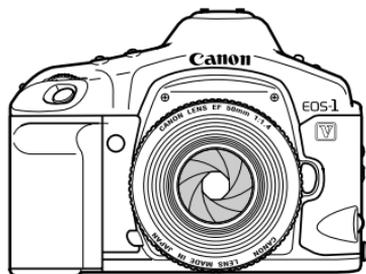
写真を撮るためにフィルムに光を当てることを露出(または露光)といいます。また、フィルム感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。適正露出は、「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、8000 (1/8000秒)～30" (30秒)、buLb (バルブ) となっています。

絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字(焦点距離÷開口径)を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0～9.1となっています。



フィルム感度 (ISO値)

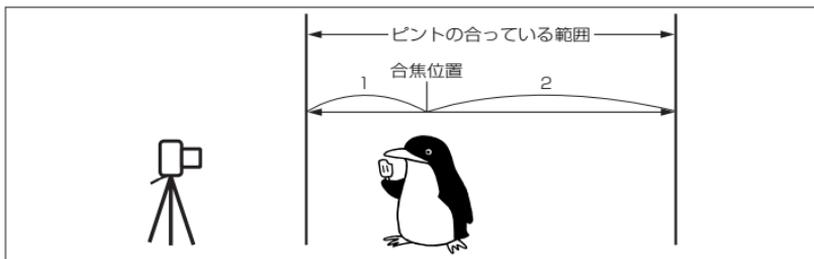
フィルム感度は、フィルムがどのくらいの光にまで感応するかを示すものです。感度はISO (国際標準化機構) で定めた数値で表示されています。数値が大きくなるほど、光に対する感度が高くなり、ISO400以上の高感度フィルムでは比較的暗いところでも写真が写るようになります。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、6～6400 となっています。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントがあっている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広がります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントの合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- (1) 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- (2) 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
…望遠レンズより広角レンズの方が被写界深度は深くなる。
- (3) 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- (4) 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前1に対して奥側が2になる(下図参照)。



絞り数値F2



絞り数値F22

「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてみてください。それでも症状に変化がなければ、最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください(裏表紙にサービスセンターの一覧があります)。

表示パネルに 表示が出ない	<p><☺>がOFFになっている。 ⇒<☺>をONにする。(→18)</p> <p>電池が消耗している。 ⇒電池を新しいものと交換する。(→23, 24)</p> <p>電池が逆向きに入っている。 ⇒電池を正しい向きに入れなおす。(→23)</p>
カメラの 機能変更が できない	<p><☺>がOFFになっている。 ⇒<☺>をONにする。(→18)</p> <p><☞>がOFFになっている。 ⇒<☞>をONにする。(→21)</p>
シャッターボタン 半押しでAFが 作動しない	<p><☺>がOFFになっている。 ⇒<☺>をONにする。(→18)</p> <p>レンズのフォーカスモードスイッチがMF(またはM)になっている。 ⇒AF(またはA)にする。(→25)</p> <p>カスタム機能C.Fn-4を1または3に設定している。 ⇒C.Fn-4を0に設定する。(→104)</p>
シャッターが 切れない	<p>表示パネルに<■●■>が点滅している。 ⇒フィルムを正しく入れなおす。(→29, 30)</p> <p>表示パネルに<□>が点滅している。 ⇒新しい電池と交換する。(→23)</p> <p>巻き戻されたフィルムが入ったままで<Ⓞ>が点滅している。 ⇒新しいフィルムと交換する。(→32, 29)</p> <p>ファインダー内の合焦マークが点滅してピントが合わない。 ⇒AFフレームの位置を変えてみる。(→42) それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせる。(→52)</p>

<p>フィルムの自動巻き戻しができない</p>	<p>低温環境下の撮影で、電池容量が急激に低下している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶新しい電池と交換する。(→23) 予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用する。(→11) <p>カスタム機能C.Fn-1を1または3に設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶C.Fn-1を0または2に設定する。(→102)
<p>表示パネルに〈〉が点滅している</p>	<p>電池容量が極端に少なくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶新しい電池と交換する。(→23) <p>何らかの理由でカメラ、レンズまたはパワードライブブースターが誤作動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶一度電池を取り出してから、再度入れなおしてみる。(→23, 120) <p>〈〉の点滅が消えれば正常に撮影を続けることが可能。〈〉の点滅が消えない場合は、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。(→裏表紙)</p>

露出警告表示一覧表

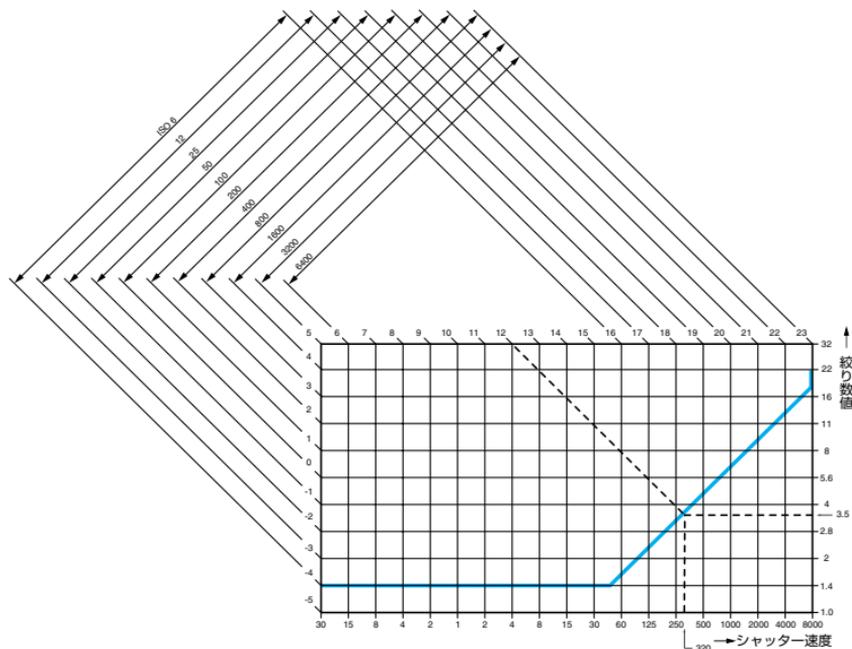
撮影モード	表示警告例(点滅)	意味	対応
P		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv		露出アンダーになります。	〈〉を回してシャッター速度を遅くしてください。
		露出オーバーになります。	〈〉を回してシャッター速度を速くしてください。
Av		露出アンダーになります。	〈〉を回して絞り数値を小さくしてください。
		露出オーバーになります。	〈〉を回して絞り数値を大きくしてください。
DEP		希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。



警告表示例は、使用するレンズの最小絞り数値がF1.4、最大絞り数値がF2.2のときの表示例です。使用するレンズによって、最小絞り数値、最大絞り数値が異なります。

プログラム線図

EF50mm F1.4USMを使用して、〈P〉プログラムAEに設定したときのプログラム線図を示します。



図の見方

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。

図の左端と上端に目盛られている被写体輝度 (EV数値) の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせが色の線で示されています。

例：被写体輝度がEV12の場合、上端の12の点から右下45°の方向にのびた線とプログラム線図の交点を見ると、シャッター速度1/320、絞り数値F3.5が自動的に設定されることがわかります。

左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は各フィルム感度に対する測光輝度範囲です。

シャッター速度と絞り数値の表示

シャッター速度の表示

シャッター速度は1/3段ステップで変わります。8000から4までは分数の分母を表しています。例えば125は1/125秒を表しています。また0.3を15"は15秒を表しています。

絞り数値の表示

絞り数値は1/3段ステップで変わります。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

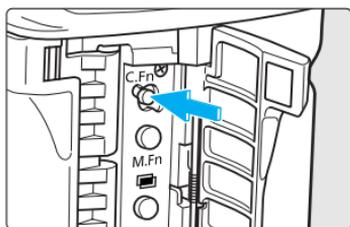
1/3段ステップ				1/2段ステップ		1段ステップ	
シャッター速度	絞り値			シャッター速度	絞り値	シャッター速度	絞り値
8000	13	1.0	25	8000	1"	1.0	1.0
6400	10	1.1	29	6000	1"5	1.2	1.4
5000	8	1.2	32	4000	2"	1.4	2.0
4000	6	1.4	36	3000	3"	1.8	2.8
3200	5	1.6	40	2000	4"	2.0	4.0
2500	4	1.8	45	1500	6"	2.5	5.6
2000	0"3	2.0	51	1000	8"	2.8	8.0
1600	0"4	2.2	57	750	10"	3.5	11
1250	0"5	2.5	64	500	15"	4.0	16
1000	0"6	2.8	72	350	20"	4.5	22
800	0"8	3.2	81	250	30"	5.6	32
640	1"	3.5	91	180		6.7	45
500	1"3	4.0		125		8.0	64
400	1"6	4.5		90		9.5	91
320	2"	5.0		60		11	
250	2"5	5.6		45		13	4"
200	3"2	6.3		30		16	8"
160	4"	7.1		20		19	15"
125	5"	8.0		15		22	30"
100	6"	9.0		10		27	
80	8"	10		8		32	
60	10"	11		6		38	
50	13"	13		4		45	
40	15"	14		0"3		54	
30	20"	16		0"5		64	
25	25"	18		0"7		76	
20	30"	20				91	
15		22					

C.Fn シャッター速度と絞り数値の設定を1段ステップまたは1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-6→106)

フォーカシングスクリーンを交換したとき

このカメラはフォーカシングスクリーンを撮影目的に合わせて交換することができます。お使いになるフォーカシングスクリーンのタイプに応じてカスタム機能C.Fn-0で適正露出の基準設定を変更する必要があります。

スクリーンタイプ	スクリーンモデル	カスタム機能CF-0の設定
☒: ニューレーザーマツスクリーン	Ec-N、Ec-R	0
☐: レーザーマツスクリーン	Ecタイプ (A、B、C、CII、CIII、D、H、I、L)	1



1 側面カバーを開けてくC.Fn>ボタンを押す

- カスタム機能番号が表示されます。

2 <🔧>を回してカスタム機能番号F-☐を選択する

3 <C.Fn>ボタンを2秒以上押し続ける

- 表示パネルに変更内容に対応した数字☐または！を表示します。
- <C.Fn>ボタンを押すたびに数字は変わります。

4 シャッターボタンを半押しする

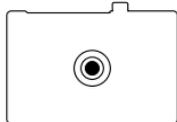
- 表示パネルは通常表示に戻ります。

🔊 C.Fn-0はグループ登録できるカスタム機能に含まれません。

- 📄 ● カメラを購入したままの状態でお使いになる場合は、カスタム機能C.Fn-0-1の設定を変更する必要はありません。
- フォーカシングスクリーンの交換方法は、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- Ec-A、Ec-B、Ec-I、Ec-Lは中央部がプリズムになっています。プリズム部を基準にした評価測光、スポット測光では適正露出が得られません。測光モードは中央部重点平均測光か中央部を除くスポット測光をお使いください。

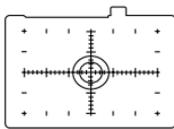
フォーカシングスクリーンEcには次のタイプがあります。

Ec-A 標準マイクロ



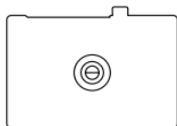
全てのEFレンズで使用可能。F5.6より暗いレンズではマイクロプリズム部にカゲリが生じます。

Ec-H 目盛入りレーザーマット



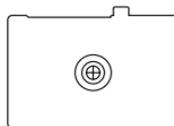
全てのEFレンズで使用可能。構図決定に便利な目盛が中央と周辺部についており接写、顕微鏡写真に適しています。

Ec-B ニュースプリット



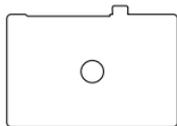
全てのEFレンズで使用可能。F5.6より暗いレンズでもスプリット部にカゲリが生じません。

Ec-I 十字入りレーザーマット



中央の十字部分でピントを合わせます。顕微鏡写真や天体撮影に適しています。

Ec-CII 全面レーザーマット



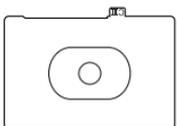
EOS-1Nの標準スクリーン

Ec-L クロススプリット



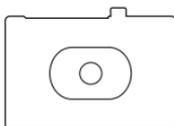
全てのEFレンズで使用可能。縦線と横線を利用してピントを合わせます。F5.6より暗いレンズではスプリット部にカゲリが生じます。

Ec-CIII レーザーマット



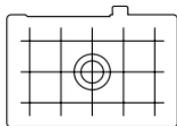
EOS-1Vの標準スクリーン
突起部にEc-Nと見分けるためのCIIIロゴが入っています。

Ec-N ニューレーザーマット



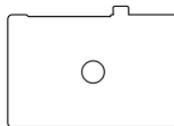
EOS-3の標準スクリーン

Ec-D 方眼レーザーマット



全てのEFレンズで使用可能。方眼線があるので建築写真や複写に適しています。

Ec-R ニューレーザーマット



EOS-1N RSの標準スクリーン

主なアクセサリ



●パワードライブブースター PB-E2

秒間最高約10コマの高速連続撮影（ニッケル水素パックNP-E2併用時）を可能とするパワーアップモータードライブユニットです。縦位置用のシャッターボタン、メイン電子ダイヤル、AEロックボタン、FEロックボタン、AFフレーム選択ボタンを備えているため、縦位置でも横位置同様の感覚で撮影することができます。バッテリーマガジンBM-E2併用時は、EOS-1N、EOS-1にも装着使用することができます。



●ニッケル水素パック NP-E2

パワードライブブースターPB-E2専用の強力な電源パックです。電源の定格は12V。500回以上の充放電繰り返し使用ができます。フル充電で36枚撮りフィルム約70本（常温）の撮影ができます。
*この電源パックを装填したパワードライブブースターPB-E2をEOS-1N、EOS-1には使用できません。ご注意ください。



●ニッケル水素チャージャー NC-E2

ニッケル水素パックNP-E2専用の急速充電器（過充電防止機能付き）です。1パックの充電所要時間は約100分、一度に2パックの取り付けができます。また、二次電池特有のメモリー効果を解消する放電機能（所要時間約8.5時間）も備えています。電源はAC100～240Vにそのまま対応します。



●バッテリーパック BP-E1

グリップ内にリチウム電池2CR5を、バッテリーマガジン内にどこでも入手しやすい単3形アルカリ乾電池4本を収納、撮影状況に応じて切り換え使用ができるデュアル電源パックです。連続撮影速度は、EOS-1V単体時と同じです。



●EOSリンクソフトウェアES-E1

EOS-1Vとコンピュータを接続して、パーソナル機能でEOS-1Vの機能設定をきめこまかく変更したり、EOS-1Vが記憶している撮影データをコンピュータに取り込んで、閲覧・編集を行うことができます。

接続は専用通信ケーブルでEOS-1Vのリモコン/通信端子とコンピュータのUSBポートをつなぐだけです。



●カメラケース (EH-11L、EH-11LL)

カメラにレンズを付けたまま収納できる、専用ケースです。



●EXシリーズスピードライト

EOS専用ストロボとして、大光量オートズームストロボやコンパクトストロボが用意されています。どのストロボでもE-TTL自動調光、ハイスピードシンクロ(FP発光)、FEロック撮影ができます。



●マクロリングライト MR-14EX

発光管2灯を用いたガイドナンバー(ISO100・m)14のE-TTL自動調光対応・EOS専用マクロリングストロボです。片側1灯発光から、2灯間の光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL自動調光で簡単に行うことができます。また、ハイスピードシンクロ(FP発光)、FEロック撮影のほか、550EXをスリーブにしたワイヤレス増灯機能など、多様なマクロストロボ撮影に対応しています。



●オフカメラシューコード2

550EXをカメラから約60cmまで離すことができます。クリップオン装着状態のストロボ機能のすべてをそのまま使用することができます。EX、EZ、Eシリーズストロボのすべてに使用することができます。



● デートバックDB-E2

サブ電子ダイヤルを装備した標準背ぶたに、2019年までの液晶式オートデート機能を組み込んだEOS-1V、EOS-3用の交換背ぶたです。写し込みデータは、①年月日 ②日時分 ③写し込みなし ④月日年 ⑤日月年のいづれかを選択することができます。フィルムID写し込みはできません。



● 視度補正レンズE

内蔵の視度調整機能との組み合わせでさらに調整範囲が広がるアイカップ付き視度補正レンズEが10種類（-4dpt～+3dpt）用意されています。



● アンチフォグアイピースEc

特に寒冷地において撮影の障害となるファインダー接眼部のくもりを防止します。ガラス表面にコーティングした「特殊吸水ポリマー」が水分をすばやく吸収、くもりの発生を防ぎます。

また、吸収した水分は自然蒸発しますので、くもり防止効果が長期間持続します。

● タイマーリモートコントローラーTC-80N3

①セルフタイマー ②インターバルタイマー ③長時間露光タイマー ④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。EOS-1Vへの接続プラグはワンタッチロック式です。





● リモートスイッチRS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおけるカメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は80cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびリリースロック機能を備えています。ワンタッチロック式接続プラグをEOS-1Vのリモコン／通信端子に接続して使用します。



● エクステンションコードET-1000N3

EOS-1VとタイマーリモートコントローラーTC-80N3やリモートスイッチRS-80N3の間をさらに10m延長するコードです。遠隔撮影に利用します。



● ワイヤレスコントローラーLC-4

最大到達距離100mのワイヤレスコントローラーです。送信機と受信機で構成されています。受信機のカメラ接続プラグは、EOS-1Vのリモコン／通信端子対応・ワンタッチロック式となっています。



● リモートスイッチアダプターRA-N3

従来のネジロック式3端子プラグを備えたリモートスイッチ60T3などを、EOS-1Vのリモコン／通信端子に接続するためのプラグ変換アダプターです。

主な性能の一覧

■型式

型式	モータードライブ内蔵フォーカルプレーンシャッター式35mm 一眼レフレックスAF・AEカメラ
画面サイズ	24×36mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群
レンズマウント	キヤノンEFマウント(完全電子制御式)

■ファインダー

方式	ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率	上下左右とも100%(アイポイント20mm)
倍率	0.72倍(-1dpt、50mmレンズ・∞)
視度調整	-3~+1dpt視度調整機能内蔵(標準視度-1dpt)
フォーカシングスクリーン	交換式(9種類)、Ec-CIIIタイプ標準装備
ミラー	キックリターン式全面ハーフミラー(反射:透過=63:37、ミラー切れ:1200mm F5.6までなし)
ファインダー情報 (主な表示)	(1) 視野内: エリアAFフレーム、AFフレーム、中央部スポット測光範囲 (2) 視野外下部: マニュアル露出、AEロック、ストロボ充電完了(点灯) FEロック時の運動範囲外警告、ハイスピードシンクロ(FP発光)、シャッター速度、FEロック(FEL)、バルブ(buLb)、AFフレーム選択モード、深度優先AE(dEP 1, 2)、絞り数値、露出補正/ストロボ調光補正、合焦マーク (3) 視野外右部: 露出段数目盛(±3段)、露出レベル、調光レベル、フィルムカウンター、フィルム逆算マーク
被写界深度確認	絞り込みボタンによる
アイピースシャッター	内蔵

■露出制御

測光方式	21分割SPC使用・TTL開放測光 (1) 評価測光(全てのAFフレームに対応) (2) 部分測光(中央部・ファインダー画面の約8.5%相当) (3) 中央部スポット測光(中央部・ファインダー画面の約2.4%) (4) AFフレーム運動スポット測光(ファインダー画面の約2.4%) (5) マルチスポット測光(最高入力回数8回) (6) 中央部重点平均測光
露出制御方式	①プログラムAE(シフト可)、②シャッター優先AE、③絞り優先AE、④深度優先AE(シフト不可)、⑤E-TTLプログラムストロボ

	AE、⑥A-TTLプログラムストロボAE、⑦TTLプログラムストロボAE、⑧マニュアル露出、⑨バルブ、(②③セーフティシフト可)
測光範囲	全測光モードともEV 0~20 (常温・50mm F1.4 ISO100)
使用フィルム感度	ISO 6~6400 (DXコード自動設定ISO 25~5000)
露出補正	(1) AEB：1/3段ステップ ±3段 (2) 手動露出補正1/3段ステップ±3段 (サブ電子ダイヤルによる) (1)(2)の組み合わせ使用可能
AEロック	(1) 自動AEロック：ONE SHOT AF+評価測光時、合焦と同時にAEロック (2) 手動AEロック：AEロックボタン押しによる。全ての測光方式で可能
多重露出	1度に9回まで設定可能 (途中解除/再設定可) 多重露出終了後自動解除。

■オートフォーカス

方式	CMOSセンサーによるTTL-AREA-SIR方式
AFフレーム	45点エリアAF
測距輝度範囲	EV 0~18 (ISO 100)
フォーカスモード	(1) ONE SHOT AF：一度合焦するとAF作動終了→AFロック (2) AI SERVO AF：露光開始まで、被写体の移動に追従し常に動き続ける。合焦表示なし、NGのみ、合焦マーク8Hz点滅表示 (3) 手動ピント合わせ：レンズのフォーカスモードスイッチMF (またはM) 時、フォーカスリング操作による。電子式手動フォーカスレンズの連続撮影・露光中フォーカスは、PB-E2+NP-E2装着時に可能
AF合焦表示	ファインダー内スーパーインポーズ (カスタム機能により有無選択可)、合焦マーク、および電子音“ピピッ” (メインスイッチにより有無選択可) による告知
AFフレーム選択	(1) AFフレーム自動選択：カメラによる自動選択 (2) AFフレーム任意選択：任意の1点を手動選択
AFフレームの登録・切り換え	任意選択の1点または、45点自動選択のいずれかを選択、アシストボタンとFEロックボタン同時押しで登録。 登録AFフレームへの切り換えは、アシストボタンとAFフレーム選択ボタン同時押しによる
AFフレーム選択表示	ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光	専用ストロボ使用時、必要に応じてストロボから自動投光

主な性能の一覧

■シャッター

方式	縦走りフォーカルプレーン式・全速電子制御シャッター
シャッター速度	1/8000～30秒(1/3段ステップ)、X=1/250秒
リリース方式	ソフトタッチ電磁リリース
セルフタイマー	10秒後/2秒後撮影の2種

■フィルム給送関係

フィルム装填	自動、フィルムセット後、背ぶたを閉じると1コマ目まで自動空送り・停止(約1秒)
巻き上げ方式	内蔵モータによる自動巻き上げ (1) EOS-1V単体：1枚/連続撮影の2モード (2) EOS-1V HS (パワードライブブースターPB-E2装着時)： 超高速(NP-E2使用時)/高速/低速/1枚撮影の4モード
赤外フィルム使用	可能
フィルム巻き戻し	フィルム終了と同時に自動巻き戻し、途中巻き戻し可能
巻き戻し時間/作動音	高速巻き戻し：約4.5(8)秒/約59dB
24EXフィルム (36EXフィルム)	サイレント巻き戻し：約12(18)/約49dB

■フィルムID写し込み(標準背ぶたに内蔵)

写し込み内容	任意設定番号(00～99)とフィルム番号(001～999)
写し込み位置・大きさ	フィルムリーダー一部0コマ目に写し込み、文字高約1mm
写し込み方式	フィルム空送り完了後、ミニランプによりフィルムベース面から透過型LCD数値を写し込む(写し込みOFF不可)
写し込み確認	写し込み中、表示パネルのIDマーク点灯
写し込み保証温度	+45～-10℃
電源	カメラ本体と共用

■撮影データ記憶

方式	撮影時、カメラ本体の内蔵メモリーに撮影データを自動記憶、コンピューターへデータ転送して撮影データの表示・編集を行う。
記憶データ	118ページ参照、カメラ単体では撮影データの確認・編集不可
撮影データ記憶可能本数	標準状態で36枚撮りフィルム100本分

■ 本体関係

フラッシュ接点	(1) アクセサリーシュー部：シンク口接点 (2) 本体右・側面下部：シンク口端子（ロックねじ付き）
外付けストロボシステム対応	E-TTL自動調光、A-TTL自動調光、TTL自動調光
カスタム機能	20種内蔵（No.0～19）
パーソナル機能	カスタム機能の組み合わせを3グループ登録可能
リモートコントロール	リモコン／通信端子標準装備、端子保護用・防滴防塵ゴムキャップ付き
電源	(1) EOS-1V単体：リチウム電池2CR5×1個 (2) EOS-1V HS（パワードライブブースターPB-E2付き）： 単3形電池×8本または、ニッケル水素パックNP-E2（別売） (3) バッテリーパックBP-E1：リチウム電池2CR5×1個と単3形電池×4本（単3形リチウム電池使用不可）
撮影可能フィルム本数	EOS-1V単体：24ページ参照 EOS-1V HS：121ページ参照
バッテリーチェック	メインスイッチONで自動バッテリーチェック、表示パネルのバッテリーチェックマーク4段階表示（消灯を含めると5段階表示）
大きさ	EOS-1V : 161（幅）×120.8（高さ）×70.8（奥行き）mm EOS-1V HS : 161（幅）×164.3（高さ）×82.5（奥行き）mm
質量	EOS-1V : 945g（本体のみ、電池除く） EOS-1V HS : 1380g（本体のみ、電池除く）

- ここに記載のデータはすべて当社試験基準によります。
- 都合により製品の仕様および、外観の一部を予告なく変更することがあります。

索引

英数字

AEB撮影	73
AERロック撮影	75
AFフレーム	
～選択の基本操作	42
～の選択	42
～の登録	46
～の領域拡大	48
エリアAFフレームとAFフレーム	41
登録AFフレームへの切り換え	47
自動選択	42
任意選択	42
AFモード	38
～の選択	38
AI SERVO AF	40
ONE SHOT AF	39
<Av>絞리数値を決めて撮る	62
<DEP>ピントの合う範囲を決めて撮る	65
E-TTLストロボ撮影	89
FEB撮影	94
FEロック撮影	91
<M>自分で露出を決めて撮る	69
<P>プログラムAE撮影	33
<Tv>シャッター速度を決めて撮る	60

あ

アイカップ	26
アイピースシャッター	84
アクセサリ	133
アフターサービスについて	141
一枚撮影	81
一枚撮影・連続撮影の切り換え	81

か

各部の名称	12
カスタム機能	99
～の設定	100
～の解除	101
～で変更できる内容	102

～のグループ登録	116
カメラの構え方	36
基本用語解説	124
「故障かな?」とお考えになる前に	126

さ

撮影

AEB撮影	73
AERロック撮影	75
E-TTLストロボ撮影	89
FEB撮影	94
FEロック撮影	91
一枚撮影	81
ストロボ撮影	87
赤外フィルムを使った撮影	86
セルフタイマー撮影	83
全自動ストロボ撮影	89
多重露出撮影	78
ハイスピードシンクロ(FP発光)撮影	90
バルブ撮影	80
汎用ストロボを利用した撮影	98
ミラーアップ撮影	85
連続撮影	81
ワイヤレス多灯撮影	96
撮影可能フィルム本数	24, 121
撮影データ記憶機能について	118
視度調整つまみ	26
絞り数値	124
シャッター速度と絞り数値の表示	130
絞り数値を決めて撮る	62
シャッター速度	124
シャッター速度と絞り数値の表示	130
シャッター速度を決めて撮る	60
シャッターボタン	18
～半押し	19
～全押し	19
初期状態に自動設定するには	21
シンクロ端子	98
ストラップ(吊りひも)の取り付け方	17
ストロボ撮影	87
E-TTLストロボ撮影	89

FEB撮影	94	ファインダー内表示	15
ストロボの調光補正	93	フィルム	
全自動ストロボ撮影	89	～IDを写し込む	26
汎用ストロボを利用した撮影	98	～を入れる	29
モデリング発光	95	～を取り出す	32
ワイヤレス多灯撮影	96	～感度 (ISO値)	124
性能の一覧	138	～感度の手動設定	77
赤外フィルムを使った撮影	86	～感度の設定確認	31
セルフタイマー撮影	83	～途中巻き戻し	32
操作の基本	18	～の巻き上げモード	121
測光		フォーカシングスクリーンを交換したとき	131
測光モードの選択方法	54	プログラムAE撮影	33
AFフレーム連動スポット測光	56	プログラムシフト	35
スポット測光	55	プログラム線図	129
中央部重点平均測光	56		
評価測光	55	ま	
部分測光	55	マニュアルフォーカス	52
マルチスポット測光	57	ミラーアップ撮影	85
		メインスイッチ	18
		モデリング発光	95
た			
多重露出撮影	78		
電子ダイヤル	19	ら	
電池		レンズ	
～をセットする	23	～の取り付け方	25
～の容量を確認する	24	～の取り外し方	25
動物予測機能	40	連続撮影	81
同調シャッター速度	98	一枚撮影・連続撮影の切り換え	81
		露出	124
は		～を固定して撮る	75
パーソナル機能	115	～を自動的に変えて撮る	73
ハイスピードシンクロ (FP発光) 撮影	90	～を補正する	71
バルブ撮影	80	多重露出撮影	78
被写界深度	125	露出を決めて撮る	69
被写界深度の確認	84	露出警告表示一覧表	128
表示パネル	14		
表示パネルの照明	86	わ	
ピント		ワイヤレス多灯撮影	96
画面の端の被写体にピントを合わせる	49		
手動でピントを合わせる	52		
ピントの合う範囲を決めて撮る	65		



この使用説明書は、2000年2月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のご相談窓口にお問い合わせください。

アフターサービスについて

- 1.保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
- 2.本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙の当社ご相談窓口にお問い合わせください。
- 3.修理品をご送付の場合は、見本のフィルムやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社 カメラ販売事業部

〒108-8011 東京都港区三田3-12-15 (東急三田ビル8F)

<http://canon.jp/>